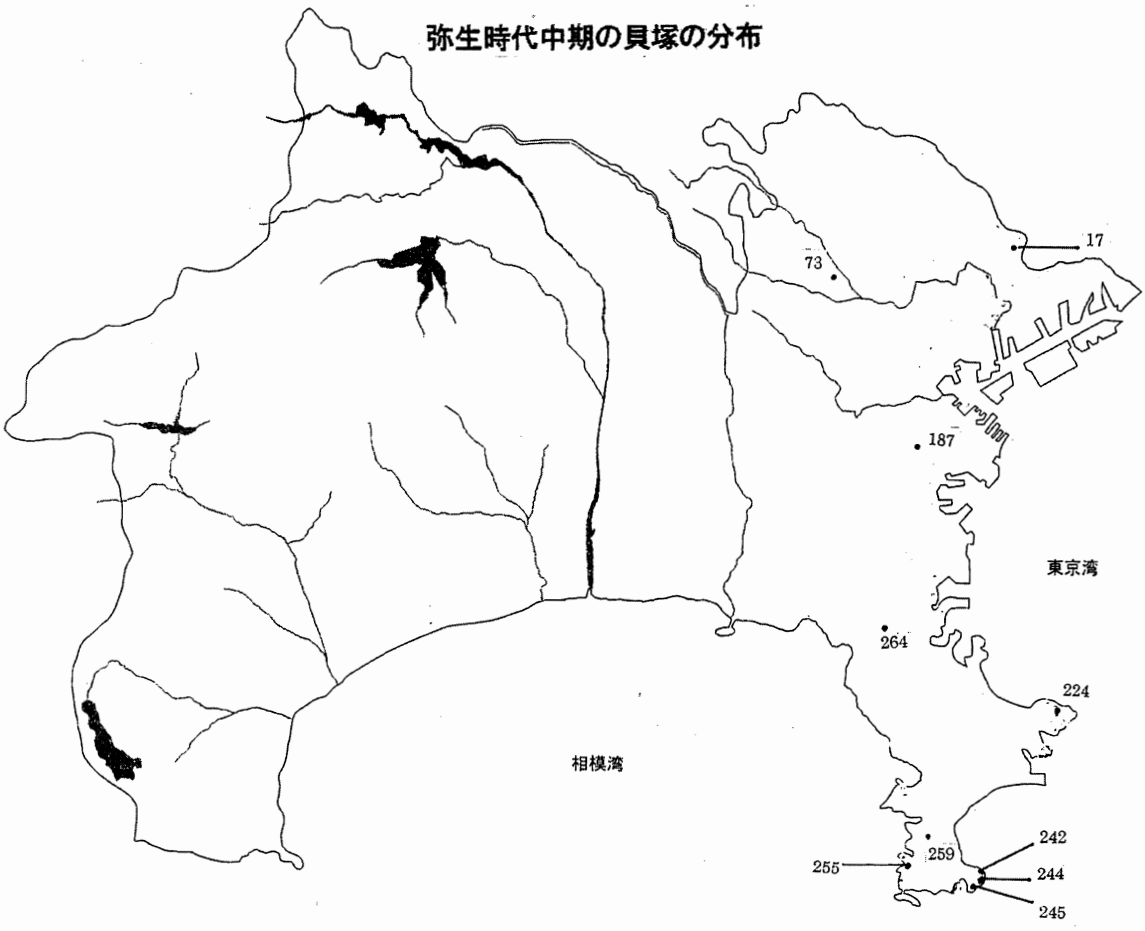
弥生～奈良・平安時代の貝塚

剱持輝久

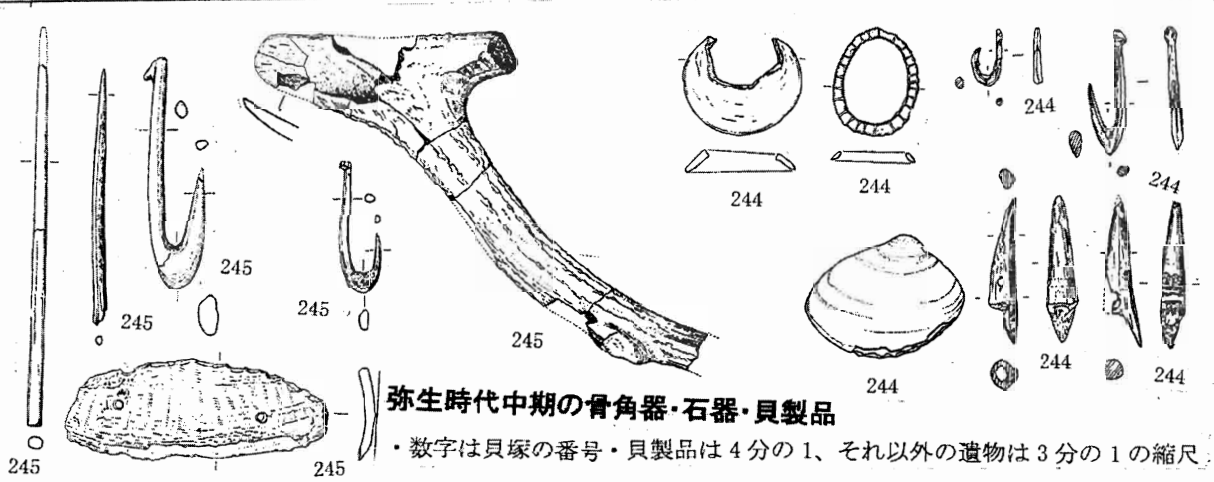
弥生時代中期の貝塚の分布



弥生時代中期の貝塚一覧表

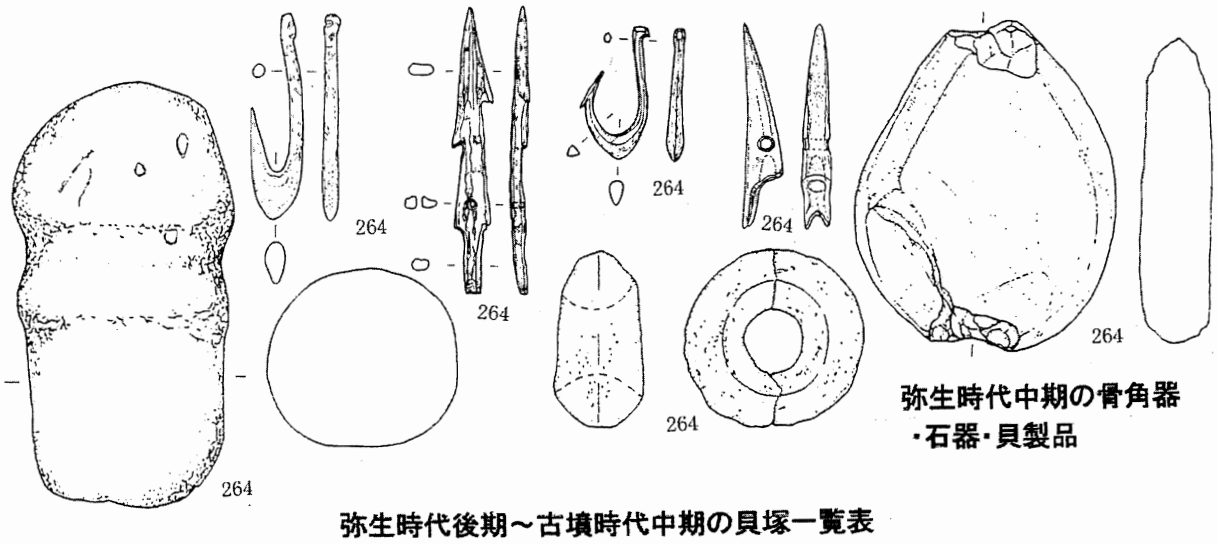
	貝塚名 酒詰番号・遺跡番号	地点	所在地	時代	時期	立地・種別	主要構成貝類	主要魚鳥獣類	骨角 貝製品
17	南加瀬貝塚 1306・未周知		川崎市幸区 南加瀬3丁目	縄文前期 弥生中期	黒浜式 南加瀬式 宮ノ台式		ハマグリ		
73	折本西原遺跡 ・都筑区360	5号住居址	横浜市都筑区 折本町1400付近	弥生中期	宮ノ台式	台地 (住居址柱穴内)	マガキ・オキシジミ・ヤマトシジミ他(計12種)		
		17号住居址		弥生中期	宮ノ台式	台地 (住居址壁溝内)	イボニシ		
		1号方形周溝墓		弥生中期	宮ノ台式	台地(方形周溝墓溝内土坑内)	マガキ・アカニシ・サルボウ他(計5種)	<哺乳類>イノシシ(計1種)	

	貝塚名 酒詰番号・遺跡番号	地点	所在地	時代	時期	立地・種別	主要構成貝類	主要魚鳥獣類	骨角 貝製品
187	岡村三殿台貝塚 1388・磯子区1	306C号住居址	横浜市磯子区 岡村4丁目11付近	弥生中期	宮ノ台式	台地 (住居址内)	ハマグリ・マガキ・アカニシ(計3種)	<哺乳類>イノシシ・シカ(計2種)	
		南側貝塚		弥生		台地 (端部)			
224	走水立花洞穴 ・横須賀市327		横須賀市 走水2丁目1092	弥生中期	宮ノ台式	洞穴内	イガイ		貝庖丁
242	雨崎洞穴		三浦市 南下浦町金田字勝谷	弥生中期	須和田式	洞穴内		<魚類>マダイ(計1種)	
244	大浦山洞穴 1426・三浦市13		三浦市 南下浦町松輪間口	弥生中期	宮ノ台式	洞穴内	サザエ他(計28種)	<魚類>マダイ・カツオ他(計12種) <鳥類>ウミウ・ヒメウ・アホウドリ他(計5種) <哺乳類>ノウサギ・ニホンジカ(計7種)	釣針・回転銛頭・髮飾棒・弓窓状有柱角器・刻点文棒状角器・アワビオコシ・ト骨・貝刃・貝輪・貝庖丁
245	間口洞穴 1427・三浦市15	8層		弥生中期～弥生後期	宮ノ台式～久ヶ原式	洞穴内	イシダタミ・クマノコガイ・クボガイ・コシダカガンガラ・スガイ・ウミニナ主体 アワビ・ヨメガカサガイ・マツバガイ他(計37種)	<魚類>クロダイ他(計7種) <鳥類>ウミウ(計1種) <哺乳類>シカ(計1種)	銛形角器・離頭銛・骨鏃・針形骨器・尖頭形角器・ト骨・貝庖丁・貝鏃・貝輪・貝刃
		10層		弥生中期	宮ノ台式				釣針・銛形角器・骨鏃・針形骨器・尖頭形角器・ト骨・貝庖丁・貝輪・貝刃
255	海外第1洞穴 ・三浦市138	第3貝層		弥生中期	宮ノ台式		バテイラ・サザエ他	<魚類>マダイ・カツオ他(計3種) <鳥類>ヒメウ・ハイイロミズナギドリ他(計3種) <哺乳類>ニホンジカ・イノシシ(計2種)	
259	赤坂遺跡 ・三浦市16	7号住居址	三浦市 初声町下宮田481・483－1	弥生中期	宮ノ台式	台地 (住居址内)	バテイラ・サザエ・スガイ・イシダタミガイ・クマノコガイ他(計54種)	<魚類>カタクチイワシ・マイワシ・マダイ他(計10種) <鳥類>ヒメウ(計1種) <哺乳類>イノシシ・シカ(計2種)	貝輪・貝刃・スレ貝・鹿角製カンザシ
264	池子遺跡群 ・逗子市140	1－A 1号貝塚		弥生中期	宮ノ台式	低湿地	イボキサゴ・スガイ・マガキ他(計38種)	<魚類>サバ属・カツオ他(計18種)	
		1－A 2号貝塚		弥生中期	宮ノ台式	低湿地		<魚類>カツオ・カタクチイワシ他(計18種) <鳥類>アホウド類他(計6種) <哺乳類>イノシシ類・ニホンジカ他(計11種)	ヤス・回転式銛頭・挿入式銛頭・垂飾？・釣針・アワビオコシ状製品・簪・ト骨・貝鏃



弥生時代中期の骨角器・石器・貝製品

・数字は貝塚の番号・貝製品は4分の1、それ以外の遺物は3分の1の縮尺

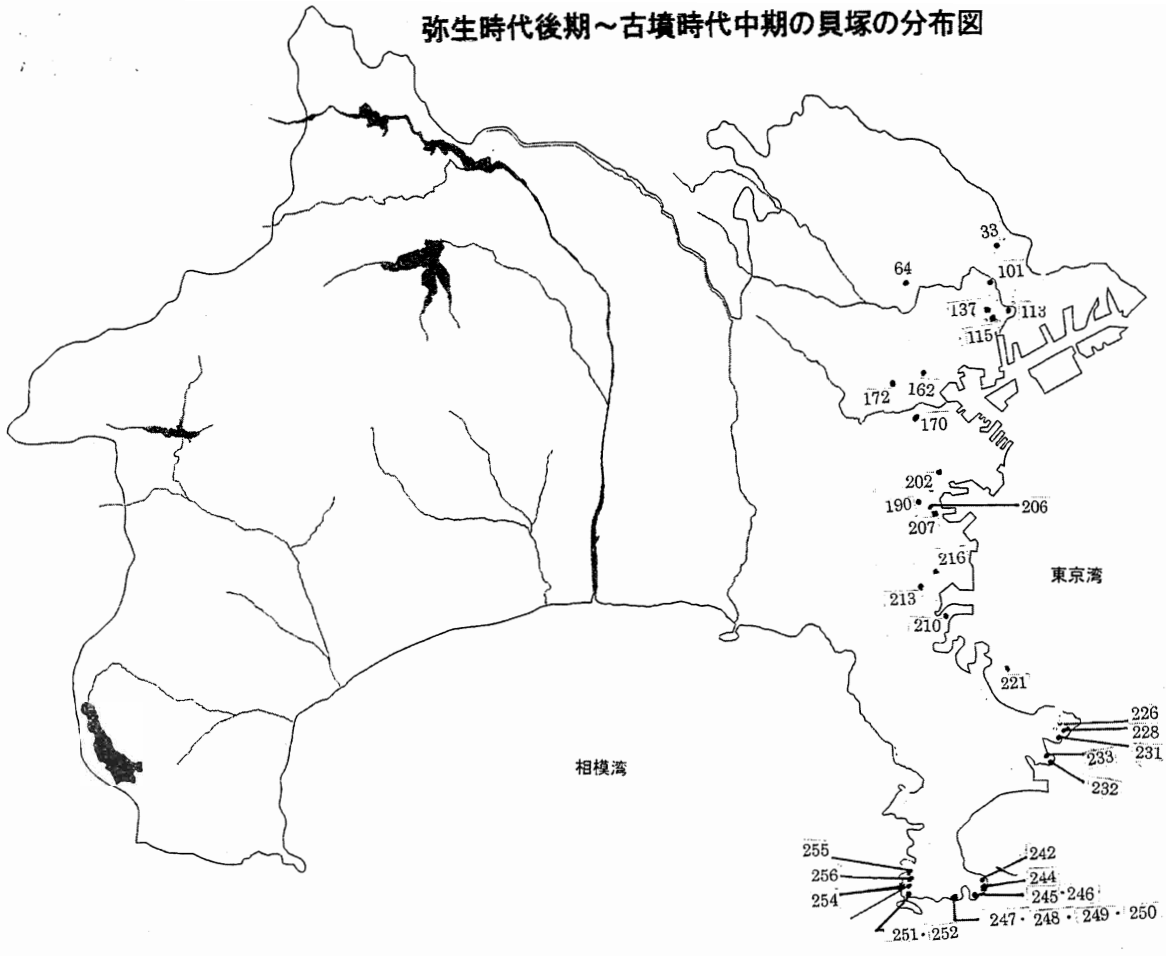


弥生時代中期の骨角器・石器・貝製品

弥生時代後期～古墳時代中期の貝塚一覧表

	貝塚名 酒詰番号・遺跡番号	地点	所在地	時代	時期	立地・種別	主要構成貝類	主要魚鳥獣類	骨角 貝製品
33	宮ノ台貝塚 ・泉周知		横浜市港北区 日吉4丁目1 慶応大学構内 (旧)矢上宮ノ台						
				弥生後期			ハマグリ		
64	吉田貝塚貝塚	(酒詰仲男)	(旧)神奈川区新吉田町字貝塚	弥生 古代		低地	貝類		
101	上台北遺跡 ・鶴見区23	2号住居址	横浜市鶴見区 上末吉4丁目12付近	弥生後期		台地 (住居址内)	マガキ・ハマグリ他(計9種)		
113	鶴見神社貝塚 ・鶴見区85		横浜市鶴見区 鶴見中央1丁目14－1 鶴見神社	弥生 古墳前期 古代		低地	ハマグリ・サルボウ		
115	鶴見貝塚 1334・鶴見区98		横浜市鶴見区 鶴見2丁目218 鶴見女子高等学校・総持寺墓地	弥生		台地	貝類		
137	東寺尾中台貝塚 1346・鶴見区95		横浜市鶴見区 東寺尾中台6 (旧)東寺尾町二本木1441付近 二本木貝塚から新道路に出た所	縄文前期 中期 弥生		台地 (西側)	貝類(純粋)		
162	軽井沢貝塚 1371・西区2	北と南	西軽井沢2126番地と浅間町富谷或隠谷戸付近は別地点	弥生		台地			
170	池ノ上貝塚 1375・西区7		横浜市西区 東久保町12 池ノ上公園 (旧)久保町池ノ上	縄文後期 弥生	堀之内式 弥生	台地			
172	仏向遺跡 ・保土ケ谷区42		横浜市保土ケ谷区 星川3丁目9-5付近	古墳前期	五領式	台地 (斜面)	ハマグリ他		
190	鉢ケ台貝塚 ・磯子区36 ・港南区66		横浜市磯子区 森5丁目24付近 横浜市港南区 笹下町53－497	縄文中期？ 弥生		台地 (南斜面)			
202	塚遺跡群 ・磯子区21	第Ⅲ地点 4号住居址	横浜市磯子区 磯子7丁目14付近	弥生後期		台地 (住居址内)	キサゴ主体 アサリ多他(計13種)		

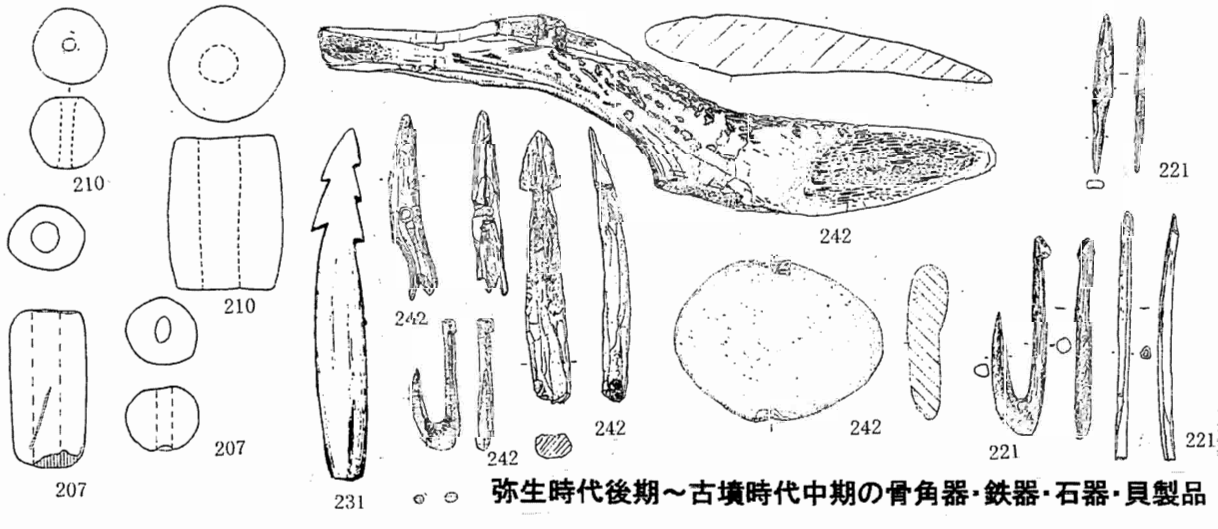
弥生時代後期～古墳時代中期の貝塚の分布図



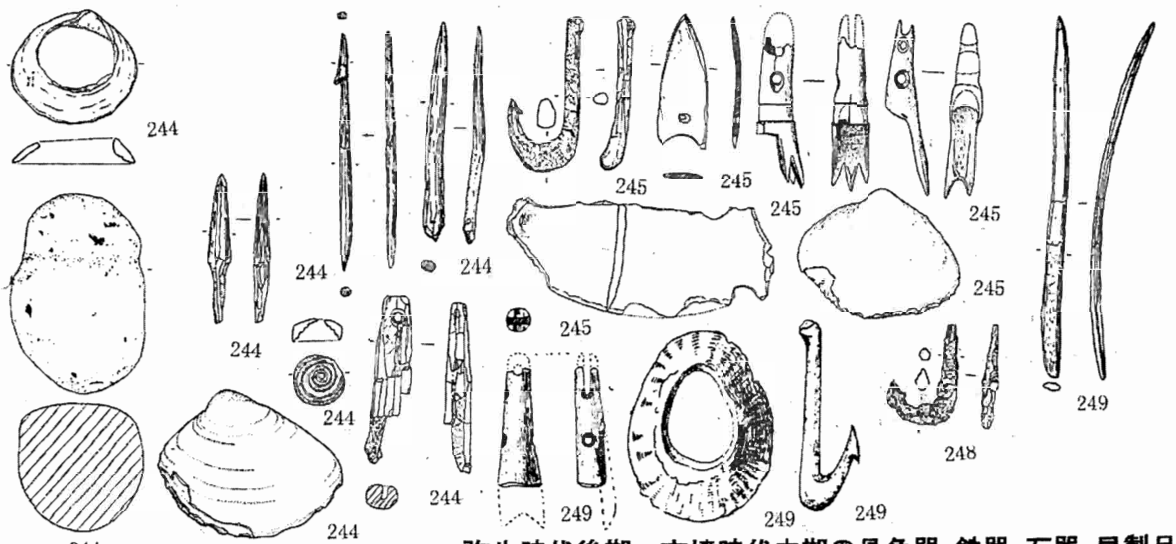
	貝塚名 遺跡番号・遺跡番号	地点	所在地	時代	時期	立地・種別	主要構成貝類	主要魚鳥獣類	骨角貝製品
207	北浦貝塚 杉田最勝寺貝塚 1400・磯子区43	中原小学校	横浜市磯子区 杉田1丁目9付近	弥生後期～古墳前期		砂丘	キサゴ・シオフキ・ハマグリ・ツメタガイ・アカニシ・アサリ・サルボウ・ウミニナ・バイ・イタヤガイ他(計16種)	<哺乳類>シカ・イノシシ(計2種)	貝輪未成品
		最勝寺境内		弥生後末～古墳前期		砂丘	キサゴ・ウミニナ・シオフキ・ハマグリ・アサリ他(計27種)		
		2002-1-A貝層		古墳前期		砂丘	ハマグリ主体 アサリ・シオフキ・アカニシ他(計6種)		
		2003-A-1貝層		古墳前期		砂丘	ハマグリ・シオフキ主体 オキシジミ他(計5種)		
210	なたぎり貝塚 1410・横須賀市6	B	横須賀市 浦郷町4丁目13	古墳前期後期	五領式 鬼高式	砂丘	マガキ・サルボウ・アカニシ他(計11種)	<魚類>マダイ・コモンアジ他(計6種) <鳥類>キジ類他(計2種) <哺乳類>ニホンジカ・イノシシ他(計5種)	
		E		古墳前期	五領式	砂丘		<魚類>マダイ他(計5種) <哺乳類>ウミスズメ類・イノシシ・ニホンジカ他(計4種)	組合せ式釣針・刀子柄
213	市立金沢高等学校内貝塚 ・金沢区48		横浜市金沢区 瀬戸22付近	古墳前期		砂丘	マガキ・ハマグリ・アサリ・キサゴ他	<魚類>マダイ・クロダイ他(計4種) <哺乳類>イルカ・イノシシ他(計3種)	貝刃
214	諸口貝塚 1403・位置不明		横浜市金沢区 六浦町字諸口	弥生 古墳					

	貝塚名 酒詰番号・遺跡番号	地点	所在地	時代	時期	立地・種別	主要構成貝類	主要魚鳥獣類	骨角 貝製品
216	称名寺貝塚 1403～1405・金沢区 56	(赤星直忠)	横浜市金沢区 (旧)金沢町称名寺山門西方約2丁(長島宅庭内？) 位置不明	弥生後期～古墳前期	前野町式 和泉式	低地			
221	猿島洞穴 1415・横須賀市34	(赤星直忠)	横須賀市 猿島1	弥生末～古墳初頭		海蝕洞穴内	イガイ・マガキ・サザエ・アカニシ・ハマグリ・ミルクイ・ウチムラサキ・スガイ・クボガイ・アワビ・レイシ・イボニシ・コシダカガンガラ・クマノコガイ・イソバショウ・マツバガイ・カリガネエガイ他(計39種)	<魚類>マダイ・クロダイ・スズキ他(計13種) <鳥類>ウミウ・ヒメウ他(計12種) <爬虫類>ウミガメ(計1種) <哺乳類>イルカ・クジラ・イヌ他(計8種)	単式釣針・尖頭器・骨針？・角器未製品・加工痕のある骨片・加工痕のある角片・貝輪
		第3貝層		弥生末～古墳初頭			マガキ・イシダタミガイ・スガイ・コシダカガンガラ・キサゴ・イガイ・イボニシ・ヒザラガイ・トマヤガイ・レイシ・タマキビガイ他(計36種)	<魚類>ホズミザメ科の一種・ドチザメ・マダイ・キュウセン属の一種(計4種) <鳥類>ウミウ・ヒメウ・カラス属の一種(計3種)	
226	岩立貝塚 ・未周知		横須賀市 鴨居2丁目	古墳前期	五領式	台地 (斜面？)	コシダカガンガラ・サザエ・レイシ・イガイ他(計10種)		
228	小荷谷遺跡 1418・横須賀市330	福祉センター	(旧)鴨居660他	古墳前期～奈良		砂丘		<魚類>マダイ他(計3種) <哺乳類>ニホンジカ他(計5種)	
231	鳥ヶ崎洞穴 1419・横須賀市16		横須賀市 鴨居2丁目	弥生後期～古墳前期	五領式	洞穴内	小形巻貝など(計9種)		ヤス・骨鏃
232	千代ヶ崎貝塚 横須賀市258		横須賀市 西浦賀町6丁目64	古墳		砂丘	小形巻貝		
233	千代ヶ崎洞穴 ・横須賀市255		横須賀市 西浦賀町6丁目	弥生		洞穴内			
242	爵崎洞穴 ・三浦市44		三浦市 南下浦町金田字原谷	弥生後期 古墳前期	久ヶ原式 五領式	洞穴内	アワビ・サザエ・スガイ・コシダカガンガラ・イシダタミ・バテイラ・クボガイ他	<魚類>サメ類・マダイ・クロダイ・カツオ他 <鳥類>ミズナギドリ類他 <哺乳類>ニホンジカ・イノシシ他	釣針・回転銛頭・ヤス
244	大浦山洞穴 1426・三浦市13		三浦市 南下浦町松輪間口	弥生後期～古墳前期	久ヶ原式 五領式	洞穴内	トコブシ・アワビ・ヨメガカサ・マツバガイ・クマノコガイ・イシダタミ・コシダカガンガラ・クボガイ・サザエ・スガイ・オオヘビガイ・レイシ・イソニナ・ミガキボラ・チリボタン他(計37種)	<魚類>マダイ・カツオ他(計11種) <鳥類>ウミウ・ヒメウ他(計7種) <哺乳類>タヌキ・ニホンジカ他(計4種)	組合せ式釣針・ヤス・骨鏃・卜骨・貝刃・貝輪
245	間口洞穴 1427・三浦市15	下層上部	三浦市 南下浦町松輪間口	弥生末期～古墳前期	前野町式 五領式	洞穴内	スガイ・イシダタミ・イボニシ主体 アサリ・ハマグリ・オキシジミ・マツバガイ・ヨメガカサガイ他(計40種)	<魚類>クロダイ他(計3種) <鳥類>タカ(計1種) <哺乳類>シカ他	骨鏃
		下層下部		弥生中期～弥生後期	宮ノ台式～久ヶ原式				釣針・離頭銛・骨鏃・尖頭形角器・鹿角製品・卜骨・鳥骨製品・貝匙丁・貝輪
246	間口B洞穴 ・三浦市209		三浦市 南下浦町松輪字間口	弥生後期～古墳前期		洞穴内	サザエ・イシダタミ・コシダカガンガラ・バテイラ・クボガイ・クマノコガイ		
247	毘沙門A洞穴 1428・三浦市9		三浦市 南下浦町毘沙門字八浦原	弥生後期		洞穴内	アワビ・サザエ・イシダタミ・マツバガイ・ミルクイ・ハマグリ他		
248	毘沙門B洞穴 1428・三浦市10		三浦市 南下浦町毘沙門字八浦原	古墳中期	和泉式	洞穴内	クボガイ・アワビ・サザエ他(計26種)		

	貝塚名 酒詰番号・遺跡番号	地点	所在地	時代	時期	立地・種別	主要構成貝類	主要魚鳥獣類	骨角 貝製品
				弥生後期			クボガイ・アワビ・サザエ他(計30種)	<魚類>サメ類・マダイ他(計3種) <鳥類>ウミウ・ヒメウ他(計4種) <哺乳類>カワウソ・ニホンジカ他(計4種)	回転結頭・ヤス・パイプ形骨製品・貝庖丁・貝輪・卜骨
249	毘沙門C洞穴 1428・三浦市11		三浦市 南下浦町毘沙門字八浦原	弥生後期		洞穴内	アワビ・イシダタミ・コシダカガンガラ・マツバガイ他(計36種)	<魚類>マダイ・ウツボ他(計7種) <鳥類>ミズナギドリ・ウミウ他(計6種)※	釣針・回転結頭・ヤス・鏃・彎曲柄形角製品・飾棒・笄※
249	毘沙門C洞穴							※<哺乳類>ノウサギ・ニホンジカ他(計5種)	※牙製腕輪・貝輪貝庖丁・卜骨
250	毘沙門D洞穴 1428・三浦市12		三浦市 南下浦町毘沙門字八浦原	弥生後期		洞穴内	貝類		
251	向ヶ崎A洞穴 1429・三浦市7		三浦市 晴海町	弥生後期		洞穴内	貝類		
252	向ヶ崎B洞穴 1429・三浦市8		三浦市 晴海町	弥生後期～古墳前期		洞穴内	アワビ・サザエ他(計21種)	<魚類>スズキ・ハタ類他(計4種) <哺乳類>イヌ(計1種)	組合せ式釣針・鏃・ヤス・貝庖丁
253	恒ノ浜洞穴 ・三浦市144		三浦市 三崎5丁目17－1	弥生中期～古墳後期		洞穴内	マダカアワビ・ウノアシ・イシダタミ・クボガイ・サザエ他(計57種)	<魚類>ベラ類・クロダイ他(計17種) <鳥類>ミズナギドリ類・ウミウ他(計9種) <哺乳類>ノウサギ・イヌ他(計12種)	釣針
254	吸煙島B洞穴 ・三浦市221		三浦市 白石町21－2他	弥生後期		洞穴内	イシダタミ・スガイ・クボガイ他(計106種)	<魚類>マダイ・ブダイ他(計19種) <鳥類>ヒメウ(計1種) <哺乳類>カワウソ・ニホンジカ他(計5種)	
255	海外第1洞穴 ・三浦市138	第1貝層	三浦市 海外町4228－7	古墳前期	五領式	洞穴内	イシダタミ・ウミニナ他	<魚類>マダイ・カツオ他(計18種) <鳥類>カモメ類・アホウドリ他(計9種) <哺乳類>ニホンジカ・イノシシ他(計4種)	回転結頭・ヤス・鏃・釣針・アワビオコシ・棒状角器・異形骨器・カギ形角器・卜骨・貝輪・貝刃・貝庖丁？
		第2貝層		弥生後期	久ヶ原式		サザエ・クボガイ他	<魚類>マダイ・カツオ他(計19種) <鳥類>カモメ類・ウミウ他(計7種) <哺乳類>ニホンジカ・イノシシ他(計5種)	
256	海外第3洞穴 ・三浦市159		三浦市 海外町11－15	古墳前期		洞穴内	スガイ・イシダタミ他(計44種)	<魚類>クロダイ・ヨブダイ他(計3種) <鳥類>ウミウ(計1種) <哺乳類>ニホンジカ(計1種)	



弥生時代後期～古墳時代中期の骨角器・鉄器・石器・貝製品

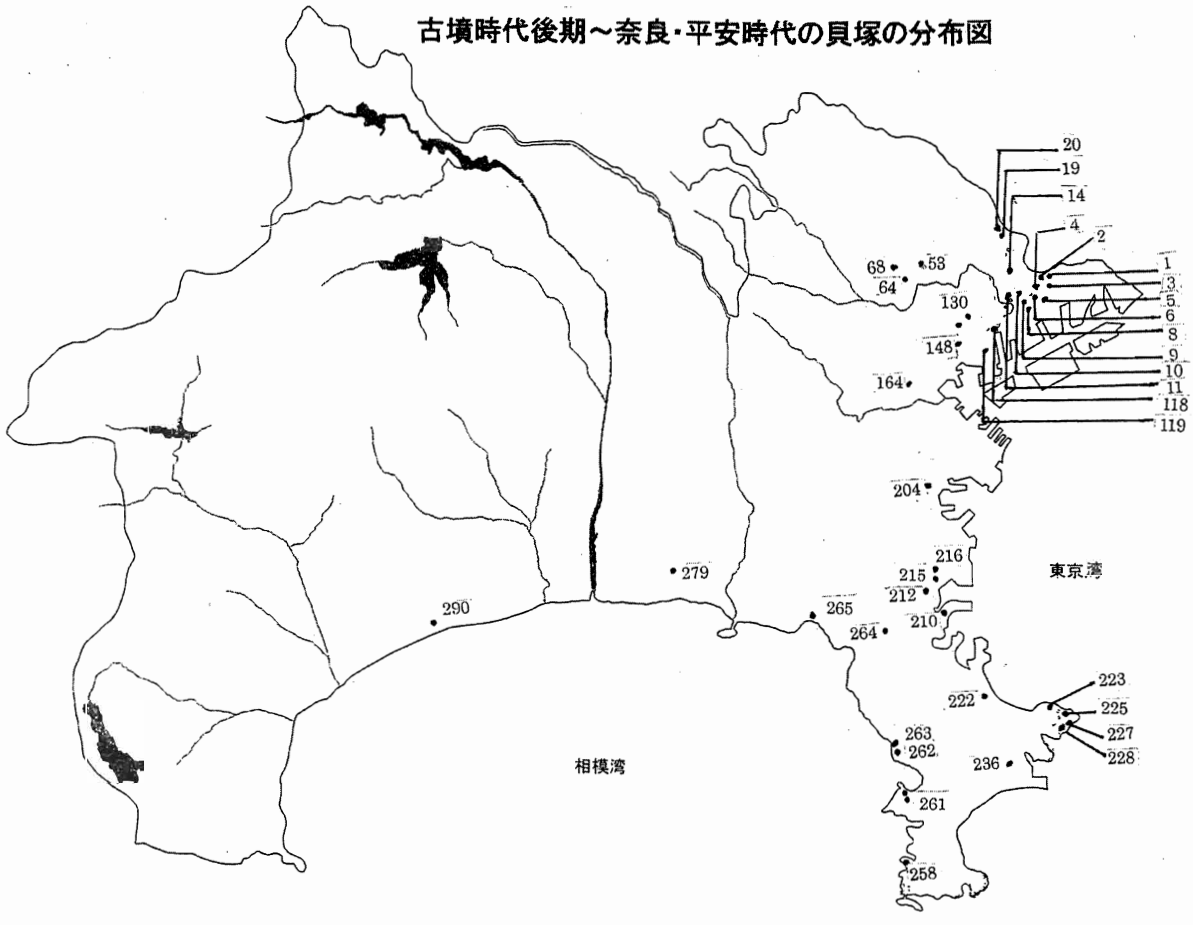


弥生時代後期～古墳時代中期の骨角器・鉄器・石器・貝製品

古墳時代後期～奈良・平安時代の貝塚一覧表

	貝塚名 酒詰番号・遺跡番号	地点	所在地	時代	時期	立地・種別	主要構成貝類	主要魚鳥獣類	骨角 貝製品
1	川崎河港遺跡 1257・未周知		川崎市川崎区 港町・鈴木町	縄文中期？ 古墳中期	厚手式？ 土師器 須恵器	低地	貝類		
2	久根崎貝塚 1258・未周知		川崎市川崎区 港町・旭町 徳泉寺墓地	古代？	土師器？	低地	貝類		
3	川崎中島貝塚 1262・川崎1		川崎市川崎区 中島2丁目15 八幡社付近		土器	低地	ハマグリ主体		土製品(漁網錘)
4	川崎堀之内貝塚 1259・未周知	5ヶ所	川崎市川崎区 宮本町7－7 稲毛神社周辺	古代	土師器	低地	貝類		
		南隣	(旧)450・466 工場敷地				貝類		
		東方	(旧)246・240 国道敷地				貝類		
		北方	(旧)191		土器		貝類		
5	大島貝塚 ・未周知		川崎市川崎区 大島2丁目10－6 真親寺(貝殻寺)墓地			低地	貝類		
6	渡田貝塚 1263・未周知	4ヶ所	川崎市川崎区 渡田2丁目14－8 新田神社周辺	縄文？ 古代	土師器 須恵器	低地	ハマグリ主体		
		北	(旧)1112						
		東	渡田1丁目20 田島小学校内						
		南	渡田3丁目13－9 (旧)1418(黒谷氏邸内)						
		西	(旧)621						
8	小田貝塚 1261・未周知		川崎市川崎区 小田1～7丁目	古代？	土師器？	低地	貝類		土製品(漁網錘)
9	溝ケ崎貝塚 1264・未周知		川崎市川崎区 渡田山王町24 日本鋼管社宅敷地・川崎高校 (旧)田島村渡田	古代	土師器	低地	貝類		
10	八丁畷貝塚 1255・未周知		川崎市川崎区 日進町 京急線路と旧線路の交点付近 (旧)小土呂町八丁畷 日本鋼管会社引込み線	縄文？ 古代	厚手式 土師器 須恵器	低地	貝類　純蛤		

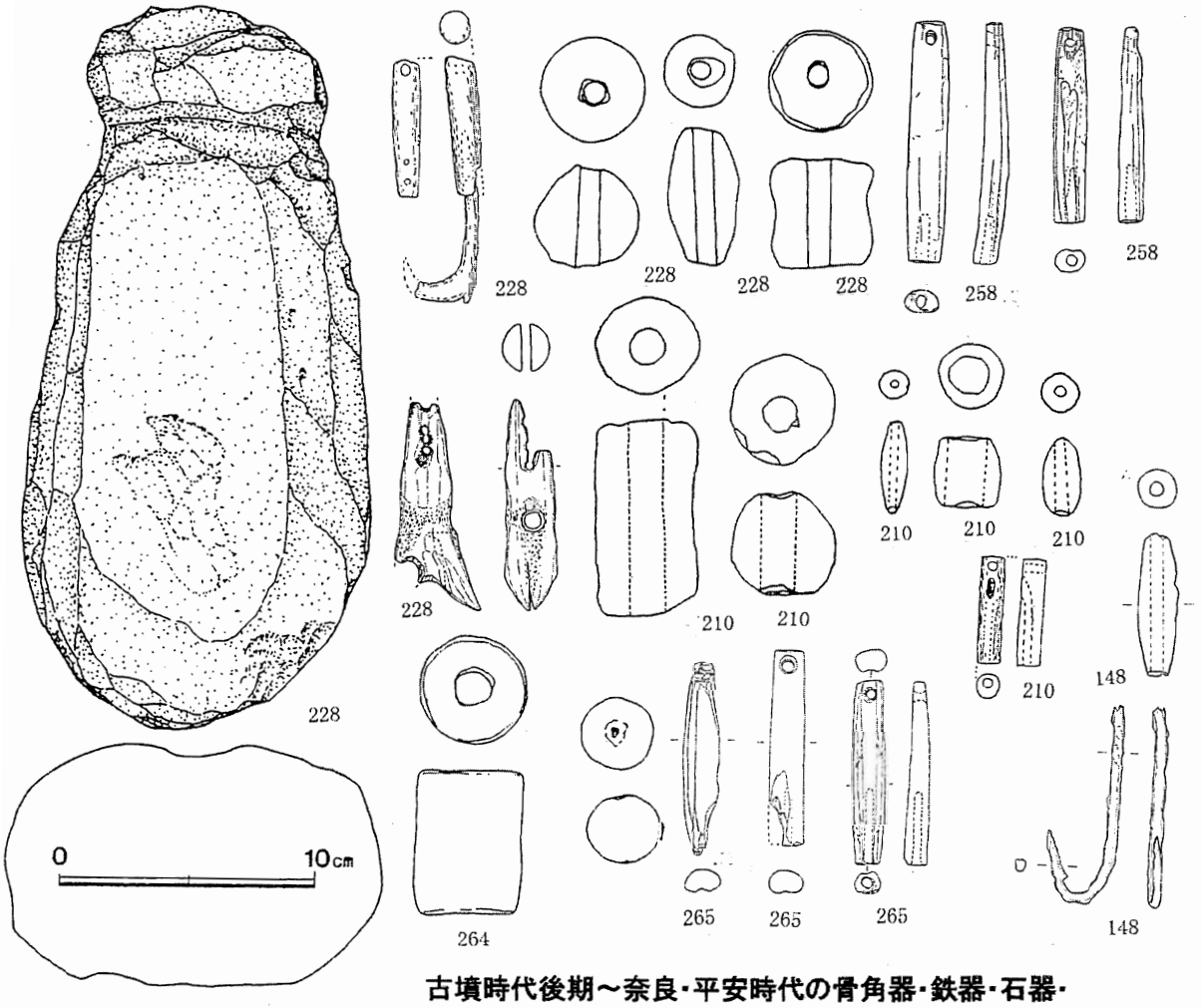
古墳時代後期～奈良・平安時代の貝塚の分布図



	貝塚名 酒詰番号・遺跡番号	地点	所在地	時代	時期	立地・種別	主要構成貝類	主要魚鳥獣類	骨角貝製品
11	市場貝塚 1254・未周知	(松下胤圓)	横浜市鶴見区 市場下町5 (旧)市場1325～1336	古代	埴輪土器	低地	貝類		
		A (佐久間昇)	市場下町9--28 (旧)市場1197	古代	土師器	低地	マガキ・サルボウガイ・アサリ・シオフキ・カガミガイ(計5種)		
		B (佐久間昇)	市場下町6～33 (旧)市場1214 金剛寺	古代	土師器	低地	ハマグリ・アサリ・シオフキ(計3種)		
14	矢向貝塚 1252・未周知		横浜市鶴見区 矢向4丁目16-8 日枝神社	古代	土師器	低地	貝類		
19	北加瀬原貝塚 1279・未周知		川崎市幸区 北加瀬363 レストラン駐車場 (旧)北加瀬原 金子浅次郎	古代	土師器	自然堤防	アサリ・ハマグリ・キサゴ・アラムシロ・ウミニナ(計5種)		
26	北加瀬西貝塚 1278・未周知		川崎市中原区 西加瀬301	古代	土師器 須恵器	自然堤防	サルボウ・マガキ・カガミガイ・ナミマガシワ・アカニシ・アサリ(計6種)		
			(旧)北加瀬西301 金子五郎						
53	峯谷貝塚 ・港北区133	(石野瑛・佐久間昇)	横浜市港北区 新吉田東1丁目34付近 (旧)新吉田町1223	縄文		低地	マガキ主体 ハイガイ・ハマグ他(計10種)		
				古代					

	貝塚名 酒詰番号・遺跡番号	地点	所在地	時代	時期	立地・種別	主要構成貝類	主要魚鳥獣類	骨角 貝製品
64	吉田貝塚貝塚	8丁目30番周辺	新吉田東8丁目30-20・13 (旧)新吉田字貝塚前2840・2841	古代		低地	<2840付近>シジミ <2841付近>ハマグリ		
		神奈川の貝塚に学ぶ会		古代		低地	貝類		
68	新吉田町5513貝塚 ・港北区82		横浜市港北区 (旧)新吉田町5513	縄文前期 中期 後期 古代	繊維土器 諸磯b式 加曽利EIV式 堀之内1式 土師器		ヤマトシジミ主体 ハマグリ		
118	小池踏切貝塚 1337・未周知		横浜市鶴見区 生麦5丁目1－3 花月園駅花月園踏切付近 (旧)鶴見駅東口小池踏切付近	古代	土師器	低地	貝類　純鹹		
119	岸貝塚 1338・鶴見区110	(谷川畜産)	横浜市鶴見区 岸谷1丁目22－12 安善寺境内とその周辺 (旧)生麦町岸	縄文後期 弥生 古代	堀之内式 土師器 須恵器	台地 (中段) 低地	ハマグリ		
130	向谷貝塚 ・未周知		横浜市鶴見区 東寺尾1丁目20・21 (旧)東寺尾字向谷	古代	土師器	低地	アカニシ・カキ・ハマグリ・アサリ・オオノガイ(計5種)		
148	白幡浦島丘遺跡 ・神奈川区60	20号住居址	横浜市神奈川区 白幡東町3丁目10-8地	古墳後期		台地 (住居址内)	アサリ・マガキ・ウミニナ主体 他(計15種)		
164	宮田町貝塚 1370・未周知		横浜市保土ヶ谷区 宮田町3丁目316付近 (旧)宮田町1139付近	古代	土師器	台地 (中段南斜面)	アサリ・ヤマトシジミ(計2種)		
204	森2丁目貝塚 ・未周知		横浜市緑区 森2丁目12付近	平安？		低地	貝類		
210	なたぎり貝塚	A	横須賀市 夏島町2	古墳後期	鬼高式	砂丘	マガキ・マテガイ・ハマグリ・アサリ他(計50種)	<魚類>マダイ他(計5種) <鳥類>キジ？(計1種) <哺乳類>イノシシ・ニホンジカ他(計4種)	組合せ式釣針・骨鏃・笄
		C	横須賀市 夏島町2	古墳後期	鬼高式	砂丘	マガキ主体 スガイ・タマキビ・ウミニナ・イボキサゴ他(計37種)	<魚類>マダイ・ヒガンフグ他(計15種) <鳥類>カモ類他(計8種)※	骨鏃・ト骨
		C						※<哺乳類>ニホンジカ・イノシシ他(計8種)	
		D	横須賀市 夏島町2	古墳後期～平安	鬼高式	砂丘	ムカデガイ科・イタボガキ他(計34種)	<魚類>スズキ・マダイ他(計5種) <哺乳類>ミズナギドリ・ニホンジカ他(計4種)	
		E	横須賀市 夏島町2	古墳後期～平安		砂丘		<哺乳類>イノシシ・ニホンジカ他	刀子柄・ト骨・ト甲
212	芝助山貝塚 ・金沢区49		横浜市金沢区 幡戸19付近	古墳		低台地	マガキ・アサリ・ハマグリ他(計12種)		
215	金沢八幡社貝塚 1407・金沢区57		横浜市金沢区 寺前1丁目10-19	古墳					
				古墳		砂丘	マガキ・アサリ・ハマグリ他(計35種)	<哺乳類>イヌ(計1種)	
216	称名寺貝塚	H貝塚	寺前町1丁目18付近	古代	国分式	砂丘	ハマグリ・アサリ・マテガイ他(計14種)	<魚類>スズキ・サバ(計2種)	
222	山崎貝塚 1416・横須賀市9		横須賀市 三春町1丁目44・安針町3丁目27	古墳後期～奈良		砂丘	マガキ・アズマニシキ他	<魚類>ヒガンフグ他(計・種) <哺乳類>ネズミ・イヌ・ウシ(計3種)	
223	走水貝塚		横須賀市 走水	奈良 平安					

	貝塚名 酒詰番号・遺跡番号	地点	所在地	時代	時期	立地・種別	主要構成貝類	主要魚鳥獣類	骨角 貝製品
225	船ノ木貝塚 ・横須賀市64		横須賀市 鴨居4丁目1328	古墳		洞穴前	スガイ・イシダタミ・バテイラ		
227	鍛冶貝塚 1417・横須賀市331		横須賀市 鴨居3丁目22	古墳		砂丘 (斜面)	サザエ他(計5種)		
228	小荷谷遺跡 1418・横須賀市330	神社	横須賀市 鴨居3丁目679	古墳後期		砂丘			組合せ式釣針・刀子柄・回転銛頭・貝輪
236	夢原貝塚 1425・横須賀26	北貝塚	横須賀市 神明町1～5 市立神明小学校	奈良		砂丘 (古墳周溝内)	キサゴ・アサリ・ハマグリ他(計23種)	<魚類>ヒガンフグ・クロダイ(計2種) <哺乳類>イヌ・ウマ・ウシ・クジラ(計4種)	
		南貝塚		奈良～ 平安		砂丘 (古墳周溝内)	ウミニナ・イガイ他(計36種)	<哺乳類>ウマ(計1種)	組合せ式釣針・骨鏃・刀子柄・ト骨
		ピット群		古墳後期～ 平安		砂丘 (古墳周溝内)	マガキ・サザエ他(計7種)		ト骨
258	浜諸磯遺跡 ・三浦市39	D	三浦市 三崎町諸磯1870－1他	古墳後期～ 平安		砂丘 (住居址内)	アワビ・サザエ・イガイ・マガキ他(計40種)	<魚類>カツオ・ウツボ・マイワシ他(計18種) <鳥類>アビ・アホウドリ他(計5種) <哺乳類>ニホンジカ・ウマ他(計8種)	組合せ式釣針・ト骨・ト甲他
		E		奈良 平安		砂丘 (土坑内)	サザエ他(計14種)	<魚類>カツオ他(計5種) <哺乳類>ネズミ(計1種)	組合せ式釣針・ト骨・ト甲
261	長井台地遺跡群 ・横須賀市60		横須賀市 長井6丁目	古墳～ 平安		台地 (住居址内？)	キサゴ・ウミニナ他(計7種)	<哺乳類>ニホンジカ(計1種)	
262	芦名浜貝塚 ・横須賀市218		横須賀市 芦名1丁目15他	平安		砂丘	サザエ・アワビ他(計32種)	<魚類>カツオ・ウツボ他(計7種) <鳥類>ミズナギドリ他(計2種) <哺乳類>ウマ(計1種)	組合せ式釣針・鏃・ト骨
263	十二所神社遺跡 ・横須賀市342	貝塚状遺構	横須賀市 芦名1丁目18～21地先	奈良 平安		砂丘	サザエ・ボウシュウボラ		
264	池子遺跡群 ・逗子市140	1－A東	逗子市 池子 米軍住宅地	平安		低湿地	イシダタミ・イボキサゴ他(計29種)	<魚類>クロダイ・マダイ(計2種) <哺乳類>イノシシ類・ニホンジカ他(計7種)	加工骨角
265	由比ヶ浜中世集団墓地遺跡 ・鎌倉市372	貝塚状遺構	鎌倉市 由比ガ浜4丁目1134	奈良		砂丘	サザエ・ナミノコガイ・チョウセンハマグリ・アサリ・シオフキ・フジノハナガイ・シラトリガイ・バテイラ・バイ・サルボウ・カキ	<哺乳類>イヌ・ウマ(計2種)	組合せ式釣針・ト骨
		貝塚状遺構1	鎌倉市 由比ガ浜4丁目1136	平安		砂丘			ト骨
		貝塚状遺構2		平安		砂丘			ト骨
279	池袋A遺跡 ・茅ヶ崎市81		茅ヶ崎市 小和田	平安		砂丘	ダンベイキサゴ主体 コタマガイ・ハマグリ・ツメタガイ・バイ・サザエ・トカシオリイレボラ	<魚類>カツオ(計1種)	
290	釜野貝塚 1444・二宮町17		中郡二宮町 山西字釜野 (旧)吾妻村釜野字古墨敷	古代	土師器 須恵器 瓦器	低地 (海岸段丘)			



古墳時代後期～奈良・平安時代の骨角器・鉄器・石器・

※貝塚の分布図と貝塚一覧表は「神奈川県貝塚地名表」2008　神奈川県立歴史博物館より作成

※遺物の図は各報告書より作成

MEMO

漁撈産業の成立

―中世都市鎌倉にみる貝類の獲得と廃棄―

宗臺秀明

はじめに

中世遺跡鎌倉では、地下水位の高い平野部の粘性沖積土が、動植物遺体を脆弱な保存状態ながら遺存させ、また海浜の乾燥した砂丘地帯も動物遺体の保存環境を作り出している。

鎌倉の中世遺跡発掘では、80年代後半以降、海浜地域の調査事例の増加を契機として、海浜に「貝溜まり」や獣骨、人骨が数多く発見された。これらの貝、獣骨、人骨などは、まとまって一遺構をなすようなことはないが、海浜の乾燥環境にあって、これらが互いのカルシュウム分を補いつつ残されてきた状況は、いわゆる「貝塚」の一種と言える。こうして出土した多量の貝殻が、河野（1988）や金子（1988）などの論考と分析から、中世都市鎌倉における貝類採取とその消費の様子を窺えるようになった。以下では、都市に供給される貝類がどのように採取され、流通し、調理・消費されたのかを見ていこうと思う。

縄文文化以来日本列島に暮らす人々にとって、重要な蛋白供給源であったものの、現在では横浜市の金沢漁港や横須賀市の横須賀漁港などの一部を除いて販売されていない[1]アカニシは、東京湾などの干潟の拡がる内彎泥底に生息する。相模湾に面して由比ヶ浜の砂浜の拡がる現在の鎌倉では、アカニシをほとんど見ることはできないのだが、鎌倉の中世遺跡で最も多く出土する貝類の一つである。とくに、砂丘地帯の拡がる長谷小路以南の遺跡からの出土が顕著（全出土貝類の50％ほど、地点1）[2]である。他方、鶴岡八幡宮と若宮大路幕府に近接する地点での出土量は少ない（同前8.75％、地点2）[3]。このように、相模湾の由比ヶ浜に面するといえども鎌倉に供給された貝類の採取と流通が鎌倉だけで完結していたとは思われず、東京湾や三浦半島まで広げて考える必要があり、また地点による偏差も消費動向を探るうえで重要な視点となる。今回の報告は、拙稿の「中世鎌倉の貝類採取と消費」（1999）、「中世鎌倉と三浦半島周辺の漁撈具」（2003）、「中世鎌倉の都市性」（2008）にもとづいて、貝を中心とする出土動物遺体から見えてくる都市鎌倉での漁撈産業の成立を考えたい。なお、ここで用いる「産業」とは、貢納や自己消費に費えるものでなく、社会的分業としての経済活動を指すものとする。

1．出土貝類と消費傾向

中世鎌倉で食用に供された貝類は、干潟から内彎砂底・泥底、湾岸砂底・泥底、岩礁に生息するものまで多種多様である。干潟群集のアサリやシオフキガイ・カガミガイ、内彎泥底群集のアカニシとバイガイ、内彎砂底群集のイボキサゴ・ハマグリ・サルボウ・マガキ・ツメタガイやウチム

ラサキガイ、湾外砂底群集ではチョウセンハマグリ・オキアサリ・キサゴ・ダンベイキサゴ、岩礁群集ではマダカアワビ・メガイアワビ・サザエ・バテイラ・コシダカガンガラ・ボウシュウボラにイガイなどがある。なかでも、内彎泥底に生息するアカニシ、湾外砂底のチョウセンハマグリとダンベイキサゴ、岩礁のアワビ類とサザエが多く出土する。

これらの貝類を消費した鎌倉は、相模湾の東北端に位置し、滑川や水無瀬川の作りだした由比ヶ浜に面している。相模湾は全般に、大崎、江ノ島、稲村ケ崎などの岬を除いては西から東へ流れる潮流によって作りだされた砂浜の拡がる海岸線を特徴とする。他方、相模湾の東を限る三浦半島では、房総半島南部とともに隆起した東西方向に活断層を持つ葉山層群と三浦層群を中心とする岩礁、転石海岸が卓越する。そして、また鎌倉の北東にある東京湾は夏期と冬季の潮流の変化を除いて大きな波浪と侵食がないために内彎の砂泥底が発達している。こうした地形環境の差異が、各地域で

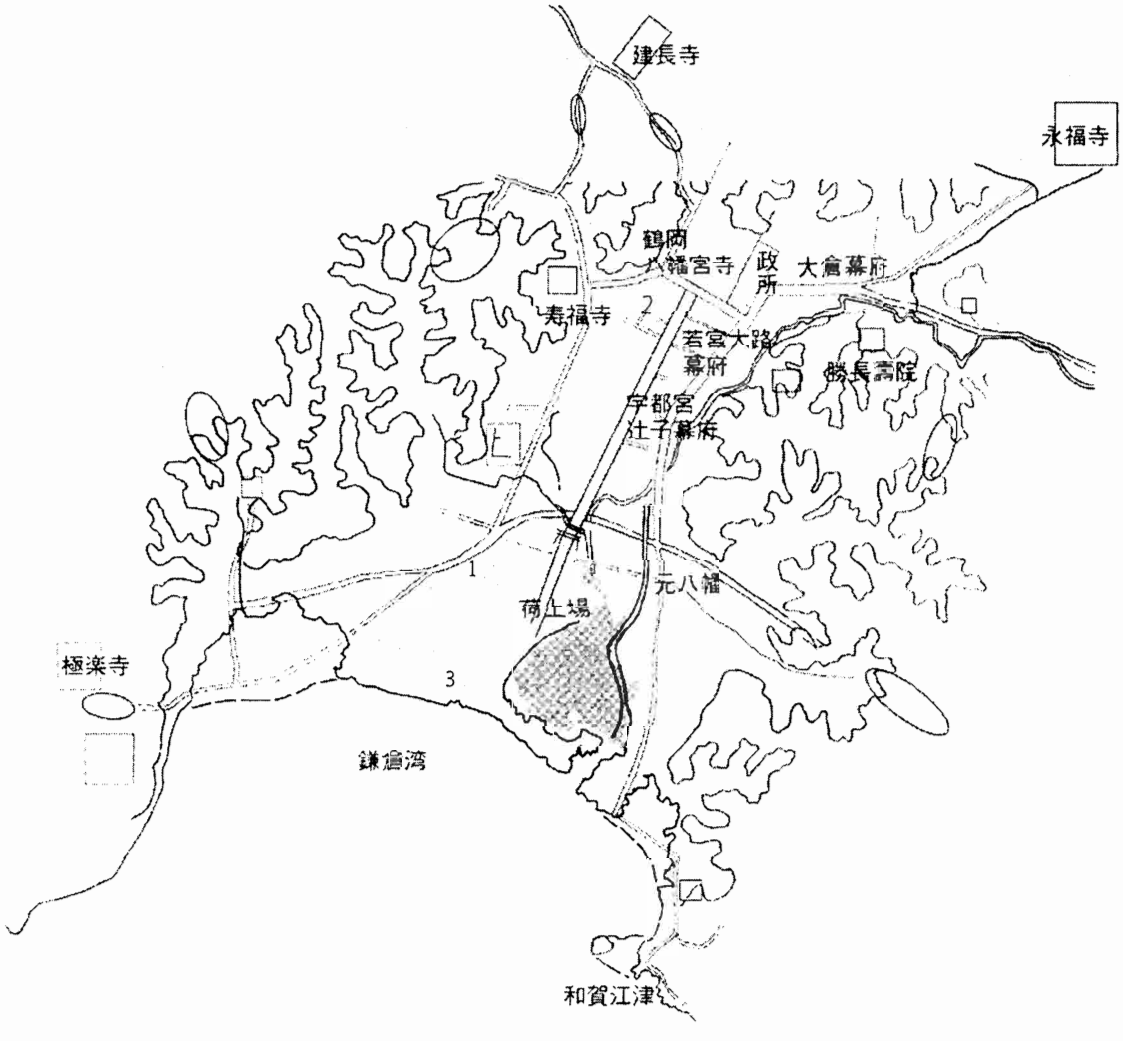


図1　中世鎌倉地形概略図と遺跡地位地図

異なる貝類の生息を決定している。

人口の集中する中世都市鎌倉の滑川河口一帯に、土木作業や廃棄物による泥底が発達するなどの人間による環境への関与も貝類の生息状況に変化をもたらした可能性（河野 1983）も否定できないが、泥底や干潟の発達した三浦半島以北の東京湾で内彎泥底群集のアカニシが採取されたのではないかと考えられる。砂底群集の貝はチョウセンハマグリやダンベイキサゴともども鎌倉の由比ヶ浜で採取される一方、岩礁に生息する貝類の多くは古くから漁撈活動が活発に行われていた現在の葉山町から横須賀市、三浦市の三浦半島の岩礁海岸で採取されたと思われる（久保 1998）。ただし、これらの若干は、由比ｶﾞ浜東西端の飯島岬や稲村ケ崎でも採られたであろう。このように、中世の鎌倉にもたらされた食用の貝類は、鎌倉の前面にある由比ヶ浜に限らず三浦半島や東京湾方面からも搬入されていたものと考えられ、都市を支えた経済活動は鎌倉を取り巻く周辺地域を基盤に成り立っていたのである。

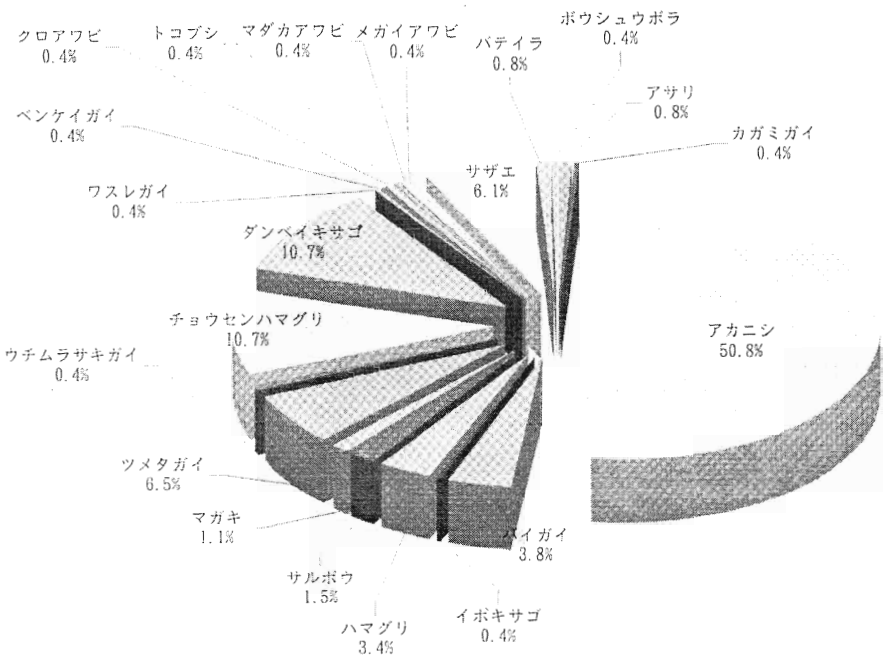
図２と３には鎌倉の海浜地域に当たる長谷小路周辺遺跡（地点 1）と鶴岡八幡宮に近い幕府中枢域の北条時房・顕時邸跡（地点 2）から出土した貝類の種別出土比率を示した。両グラフともにそれぞれの遺跡における 13 世紀中頃の生活面と遺跡全体での数値である。両者を比べて現れてくる傾向は、内湾泥底群集と砂底群集の出土比率の差である。長谷小路周辺遺跡では、アカニシが圧倒的高比率に、チョウセンハマグリやダンベイキサゴの湾岸砂底群集とハマグリの内湾砂底群集が低比率で出土する。一方の北条時房・顕時邸跡遺跡では、チョウセンハマグリやダンベイキサゴの湾外砂底群集とハマグリの内湾砂底群集が高く、アカニシやバイガイといった泥底群集は低い出土率を示している。さらに、三浦半島や江の島などに生息する岩礁群集のアワビ類の出土比率も鎌倉の海浜地域と幕府中枢域では異なる出土比率を示している。ただし、同じ岩礁群集でもサザエは同じような比率であることが注意されよう[4)]。

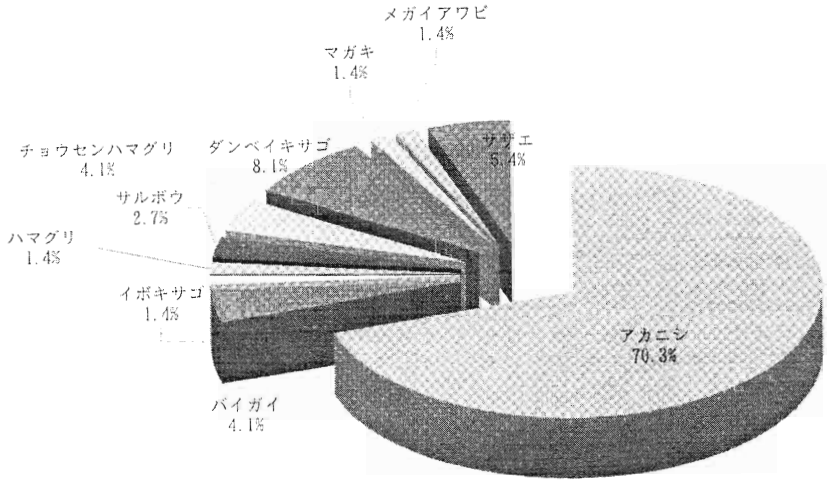
このように、中世鎌倉遺跡から出土する貝類は、都市内からまんべんなく出土することはなく、またそれぞれの貝種が採取される地域との遠近に関係なく地域的偏差をもって出土することがわかる。すなわち、都市内の地域差によって、消費される貝種が異なっていたと考えられる。

15 世紀中頃に描かれた『石山寺縁起絵巻』第五巻に見ることのできる貢納物の貝はハマグリとされている。このことから中世の鎌倉でも、チョウセンハマグリやハマグリが屋敷地の食用に供されていたことが予想される。また、酒に酔って騒動の起きたことで有名な下の下馬の西の頬付近に当たる下馬周辺遺跡では、焼失した方形竪穴建物内の囲炉裏の中から 1560 個ものイボキサゴ出土している（宗臺 1992）。これらイボキサゴはその出土状態から、家屋が焼失する直前に一度に食されたものと考えられ、これだけの量を食べるのも大変であるが、個人的に海に出向いて採取する量でもなかったことがわかる[5)]。出土したイボキサゴに混じっていた小型の巻き貝の混入から、漁撈従事者が内湾砂底で集中的に貝の採取を行っていたことも推測できる。

図４は先に見た長谷小路周辺遺跡よりもさらに南方の砂丘域で調査された遺跡から出土した貝

類の種別比率グラフである。アカニシが長谷小路周辺よりも少ないのに対してハマグリ類の多さが際立っている。この遺跡では貝殻の他に魚骨、特にマグロなどの大型魚の頭部のみが数多く出土するように漁撈民と係わりが強い海浜遺跡である。おそらくは、水揚げ地に接した漁撈従事者の居住



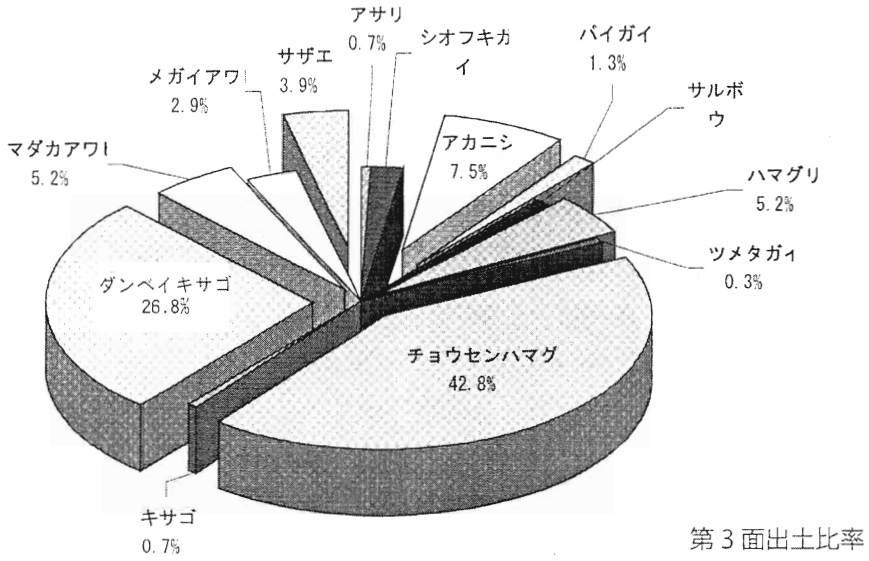


全出土比率

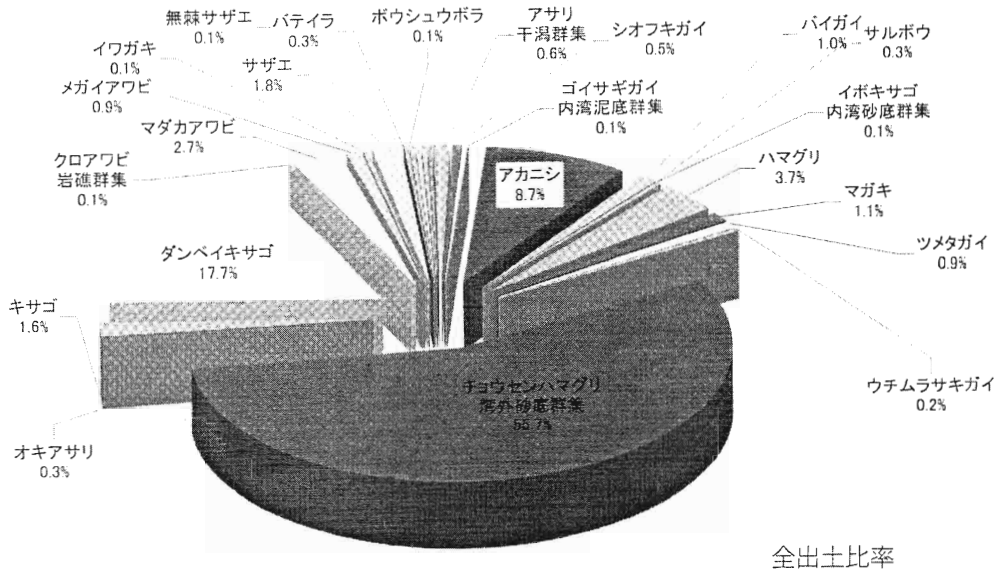
図２　長谷小路周辺・二階堂邸出土貝類種別比率グラフ

域の一画と考えかける。さらに由比ヶ浜では産出しないアカニシの存在は、東京湾からの水揚げ品が持ち込まれていたことを示している。

河野がボウシュウボラやミガキボラではないかとする「へなたり」が『徒然草』では金沢六浦



第3面出土比率



全出土比率

図3　北条時房・顕時邸跡出土貝類種別比率

にあると記している（河野 1988）ように、岩礁群集のボウシュウボラ、ミガキボラが内彎泥底の六浦にもたらされていたとする記述は、房総方面の貝が金沢まで搬入されていたことをも示している。ホラ貝は、食するには適さず、『徒然草』では香に用いたとしているように、食用ではない。これをもって、短絡的に他の食用貝類も産出地から離れた鎌倉へと各地からもたらされていたとすることはできないかもしれないが、中世鎌倉から出土するアカニシは、東京湾の泥底で採取されたものがもたらされた可能性は高い。由比ヶ浜に接した長谷小路周辺で大量に出土するアカニシは、単に産出地に近かったためではなく、多様な階層が集住する都市での消費に応じた水産物の搬入を示している。その搬入先が鎌倉の由比ヶ浜であることは、由比ヶ浜のでの漁の水揚げ地が単なる由比ヶ浜に居住する漁撈従事者の水揚げ地ではなく、東京湾の水産品も集まる水産市場であり、この水産市場から水産品が都市内へと流通し、上に見た二遺跡でのように地域による消費の差を生み出したと考えるが、なぜそうした消費の差違とともに、直接的な漁撈従事者だけでない水産品の搬入を行なう者までが内包された水産市場が由比ヶ浜に生まれたのであろうか。

3. 消費と流通

消費傾向の地域的差違については、調理法と摂食形態が影響しているのではないかと指摘したことがある。すなわち、古代から中世にかけての饗宴における共食と身分についての原田（1997）の考察を下敷きに、中世から近世にかけての膳の形態（本膳料理と懐石料理）とその調理法は、①

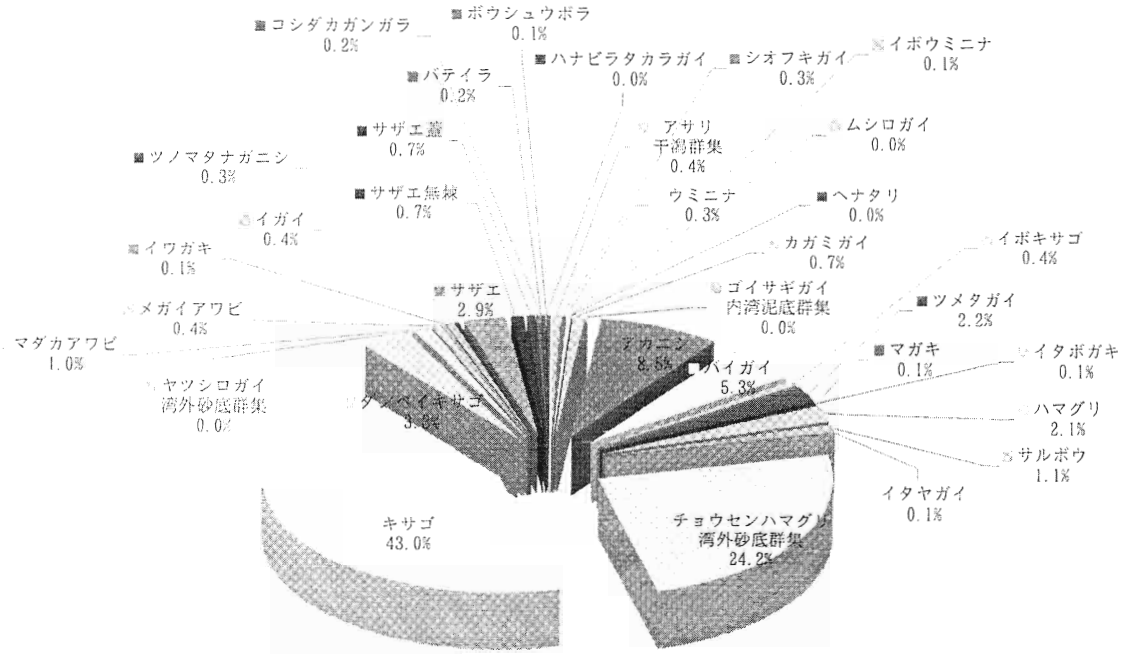


図4　由比ヶ浜集団墓地遺跡出土貝類種別比率

塩や酢による動物質を鱠(なます)にする、②動物質と植物質を煮る・茹でる・蒸すを基本とし、③焼く調理法はあくまでも供応の席の料理では付随的であり、またお土産としての保存調理法のようであると考えた（宗臺 1999）。鎌倉期の後半に確固とした位置を国内に占めた禅宗の精進料理の影響も見逃せないかもしれない。

出土する貝殻には調理の痕跡を見ることができる。貝殻の白化、焦げ後、打ち欠きである。白化は貝殻が白く変色し、殻質に粘りはなく粉質状となっている。この白化と殻質の粉質化は、加熱、特に茹でたためと考えられるが、ハマグリ類などの二枚貝に頻繁に見られ、鍋などにて茹でられたものと考えられる。おそらくは小型のキサゴ類も同様であったろう。さもなければ、方形竪穴建物内囲炉裏に捨てられた 1560 個ものイボキサゴを一時に調理できまい。ただし、白く変色していないハマグリ類も見られ、殻から身が抜き取られた場合もあったようだ。

他方、アカニシでは口唇とその反対側の体層が大きく打ち欠かれている例が多く、打ち欠かれた体層の周りに黒く焦げた跡を確認できる。この焦げ跡は、アカニシの口を上に向けて火にかけて焼き、その後に身を引きずり出して食されたことを示している。まるで私たちがサザエを焼くときのようである。しかし、出土したサザエには焦げ跡をこれまでに確認したことはない。サザエの殻が薄く、剥離しやすいためであろうか。また、古来より熨斗鮑として贄などの貢進物とされたアワビの殻は、そのほとんどが小さく割れてしまっている。中世の鎌倉では、柱穴の中に埋地されるなど（宗臺ほか 1997）、多分に呪術的要素の強いアワビの調理法は、出土貝殻からは不明とせざるをえない。やはり干物を調理した煮物か生ものとして食されたのであろうか。

出土貝殻の観察からは、サザエとアワビの調理法が判然としないが、ハマグリ類、ダンベイキサゴとアカニシの調理法は、ほぼ明らかである。すなわち、茹でたダンベイキサゴ、茹でるか抜き身を煮たハマグリ類に、焼いたアカニシである。この調理法を、料理の中に位置づければ、煮物にも用いられるハマグリ類や干物であった可能性の高いアワビは、膳に盛られる饗宴の料理であり、貝殻ごと焼いた後に身を抜きだすアカニシは饗宴の場にはふさわしくない料理となる。こうした食材によって異なる調理法が、出土地域による貝種の出土比率の差異に結びついているのではないか。そして、そのことは食の階層性、すなわち貝種の選択に当たって、地域住民の階層に起因する食事形態の相違を示しているものと考えられる。

中世都市鎌倉の中に見られた貝類の消費傾向の差違は、実際にはどのような人々によって供給されていたのだろうか。

中世鎌倉の漁撈を論じた（宗臺 2003）際に、鎌倉の東南部に位置する材木座から小坪にかけての飯島岬で活動していた丸木船漁撈民が、幕府を始めとする武士のほか、寺社での鮑需要の多くを賄っていたと想定し、その飯島の地が将軍家もしくは宝治合戦（1247 年）以後には北条氏によって掌握されていたと考えた。そして、貢進の見返りに磯見付き漁の占有権の獲得と海上活動・海上警護の責をも彼ら漁撈民が負ったと考えた。すすんで、磯漁だけでなく鎌倉湾から三浦半島にかけ

ての海上活動の権益は、彼ら漁撈民が海上からの物資搬入（太平洋海運）にも携わった可能性の高いことを示唆し、その背景として漁法から窺える紀伊半島との緊密な関係を想定した。

このようにして行政機関と統治機関に対する貢進の見返りといえども、広範な海上活動の占有権を持ったこうした漁撈民は、貢納・貢進と自家消費に限られた漁を行なう漁撈従事者ではなく、すでに見てきた都市内消費の水産物を供給する産業従事者として、その立場を確立させていたと考えられる。

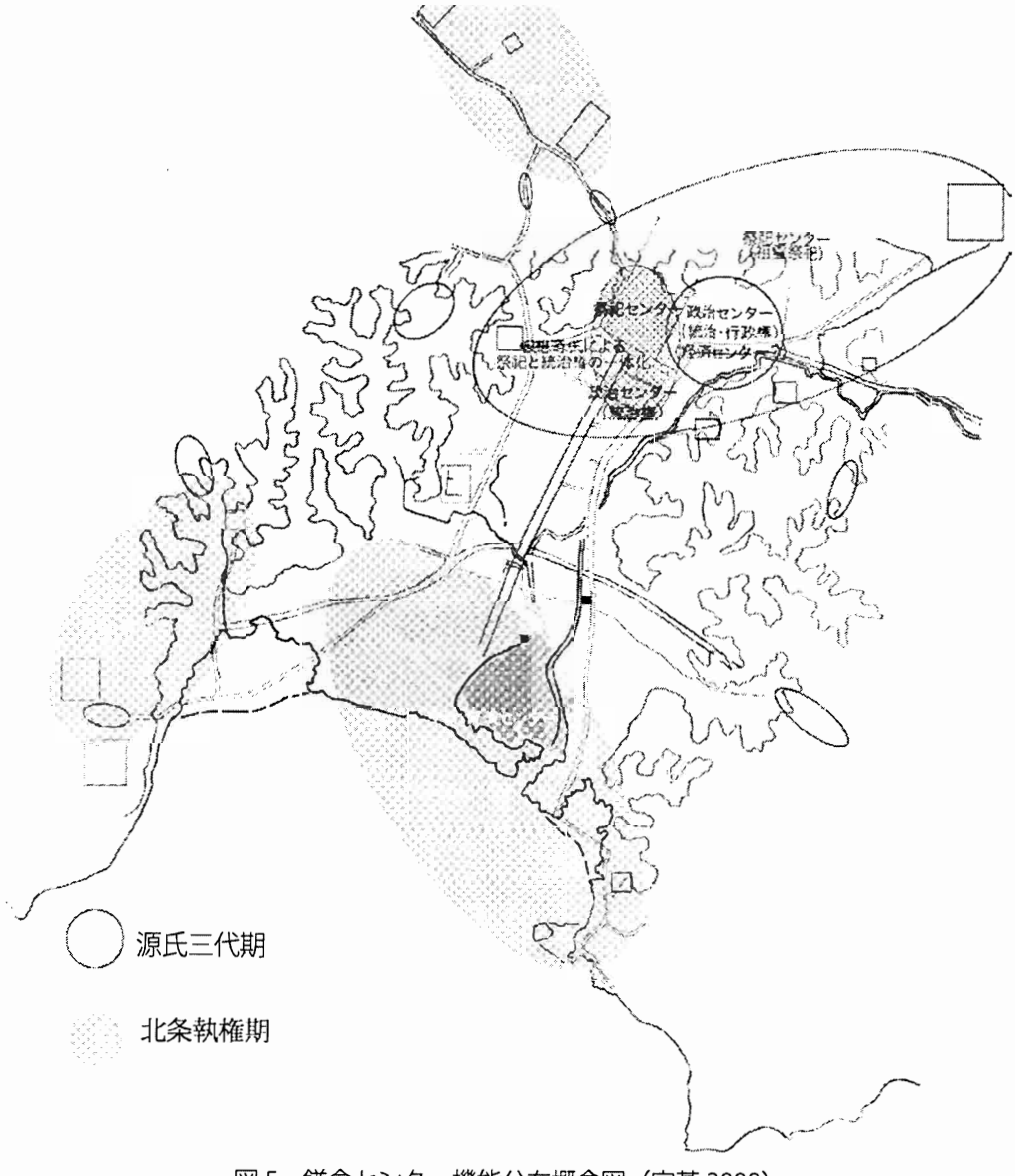


図5　鎌倉センター機能分布概念図（宗墓 2008）

5. おわりに

漁撈産業の成立を見た中世鎌倉の由比ヶ浜、かつては「前浜」、「由比の浦」などと呼ばれた湊の背後に広がる砂丘地帯には、動物の死に係わる牛馬の解体や骨細工、それに皮革工芸などに従事する人々が活躍した。筆者はこの地域を中世都市鎌倉の交易・経済センターとして捉えているが、そうした活動のうち、漁撈に係わる活動痕跡が「貝溜まり」や魚骨の出土となって発見されている。この痕跡から、今回は漁撈産業の成立が窺われないかと考えたが、その成立背景には古代都市と異なる中世鎌倉の都市センター機能があると考えている。それは、急激な東国武士の集住から始まった鎌倉幕府が貢納体系を持たず、各武士団所領からの穀物を中心とした物資の他に、多くの生活物資の搬入を前提とせざるを得なかったことに加え、北条執権期に顕著となった統治権と行政権の分離が複雑な物資の流入を促したことを特徴としている。こうした大規模交易が鎌倉の経済基盤となり、そこで暮らす都市民を中心とした小金経済がさらなる物資流通の拡大を助長したものと想定している。

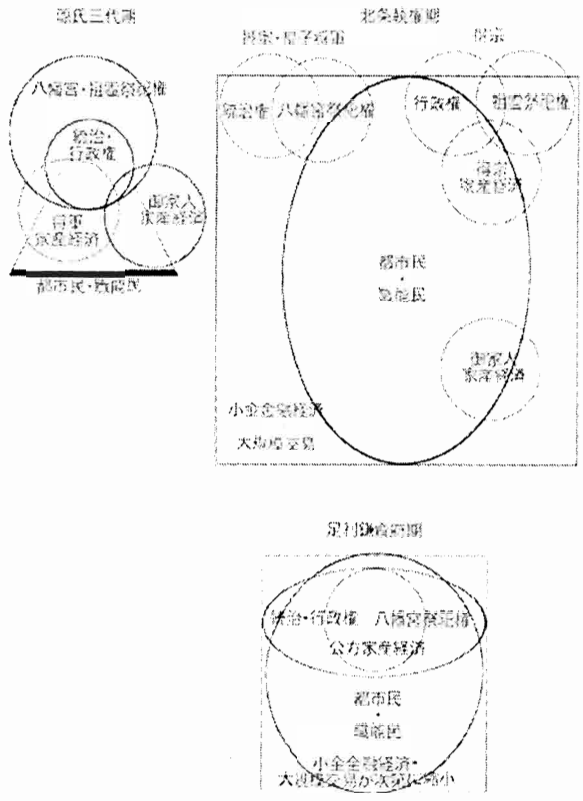


図6　鎌倉センター機能概念図（宗基 2008）

註

1）近世末から大正時代にかけての長谷観音前遺跡では、アカニシは出土せず、岩礁に生息する貝が多く出土する。他方、近年では江ノ島や城ケ島の観光地でアカニシの肉がサザエの代用にされていたとも言う。そして、最近では三浦半島の相模湾側漁港の市場でもアカニシが販売されているが、多くは東京湾からもたらされている。

2.）長谷小路周辺遺跡和田塚地点（宗基ほか 1995）

3）北条時房・顕時邸跡（宗基ほか 1997）

4）海浜地域は、中世地山から覆土までが細かな貝類の破砕片を多量に交えており、おのずとカルシュウム分の遺存条件が良く、幕府中枢域の中世地山や覆土は水分を多く含む粘質土であるなど、地域の異なる複数遺跡からの動物遺存体出土点数の単純比較を行えない条件も考えられるが、ここで用いた両遺跡の出土貝類の比率は、中世に限った遺跡の存続年代を通して大きく変わらず、遺存条件の差異が両遺跡の比較に当たって大きな変数とはな

らないと考えられる。また、本論で掲げた貝種の出土比率が大きく変化するのは近世の江戸期に入ってからであると思われる（註1）。

5）イボキサゴと同時に出土した二枚貝の殻高と冬輪との関係から、夏から初秋にかけての時期とされる。また、貝の採取に当たっては、アサリ、カキ、メガイアワビ、バイなど春から夏にかけての産卵期に、時には死に至る中毒を起こさせるもののあり、貝種による採取時期が当然に異なっていたであろう。特定遺構からの出土貝種によって、その地域の貝類の消費傾向を追うことはできない。

参考・引用文献

金子浩昌 1988「中世遺跡における動物遺体　ー鎌倉市内の調査例を中心としてー」『鎌木義昌先生古稀記念論集　考古学と関連科学』407～430頁.

河野眞知郎 1983「鎌倉中世遺跡に見られる貝について」『鎌倉考古』No.17、5～8頁.

河野眞知郎 1988「中世鎌倉動物誌　ー都市遺跡出土の動物遺体と関連遺物からの予報ー」『歴史と民俗』No.3、68～103頁.

久保和士 1998「自然遺物」『浜諸磯遺跡　E地点の発掘調査報告書』42～57頁.

宗臺秀明ほか 1992『下馬周辺遺跡　東京電力鎌倉営業所改築に関わる発掘調査報告書』下馬周辺遺跡発掘調査団.

宗臺秀明ほか 1994『長谷小路周辺遺跡　由比ｶﾞ浜三丁目228・229番外（No.226）ー中世前期の地割を伴う工芸職人居住地の調査ー』長谷小路周辺遺跡発掘調査団.

宗臺秀明ほか 1997『北条時房・顕時邸跡』北条時房・顕時邸跡発掘調査団.

宗臺秀明　1999「中世鎌倉の貝類採取と消費」『東国歴史考古学研究所　紀要』第1集、20～28頁.

宗臺秀明　2003「中世鎌倉と三浦半島周辺の漁撈具」『物質文化』76、14～37頁.

宗臺秀明　2008「中世鎌倉の都市性」『白門考古論叢Ⅱ　中央大学考古学研究会創設40周年記念論文集』203～222頁.

原田信男 1997「古代・中世における共食と身分」『中世食文化の基礎的研究』国立歴史民俗博物館研究報告第71集、467～515頁.

松島義章 1989「貝からみた古環境の変遷　ー特に縄文時代を中心としてー」『新しい研究法は考古学になにをもたらしたか』10～31頁.

近 世・近 代　—消費社会と貝塚—

桜井準也

はじめに－貝塚かゴミ穴か－

考古学において「貝塚」という用語は主に縄文時代研究において使用される。『広辞苑』（第５版）においても「貝塚」は「人が食した貝の殻が堆積したもの。全世界に分布するが、日本の縄文時代のものが数も多く、内容も豊か。土器・石器とともに各種の自然遺物が混じり、生活や環境復元資料として重要」と記載されているように、「貝塚＝縄文時代」というイメージがある。しかし、縄文時代以降も貝塚は存在し、より現代に近い近世や近代においても貝殻に混じって自然遺物（食物残渣）や人工遺物（生業に使用される道具や生活財）が出土する。ただし、縄文時代においては廃絶された竪穴住居内や台地・丘陵の斜面に貝殻が廃棄されるのに対し、近世や近代では穴を掘って他の不要なゴミと一緒に貝殻が廃棄されることが一般的である。また、近世や近代においては陶磁器などの人工遺物の占める割合が多いこともあり、貝殻や動物遺体が出土する地点は「貝塚」ではなく「ゴミ穴」（遺構名称としては土坑や廃棄土坑）と呼ばれる。本発表では貝殻や動物遺体を伴う「ゴミ穴」を「貝塚」として紹介するが、その「ゴミ穴」も昭和30年代頃から始まったゴミの回収事業の浸透によって、現在では家庭や地域集団によって形成されることはなくなった。多くの研究者は気付いていないが、これは「未来の考古学の危機」である。これに対し、貝殻のみで構成され、縄文時代の貝塚を彷彿とさせる貝塚は現在でも存在する。全国各地に存在する貝の剝き身の作業場周辺にみられる貝の廃棄場がそれであり、貝類の養殖が盛んな海浜部に点在している。

神奈川県内では残念ながら近世や近代の「貝塚」が発掘調査された事例は非常に少ない。そのため、今回は発表者がかつて調査を行った東京都内の近世遺跡の事例および三浦市の近現代遺跡の事例をあげながら、海産物が商品として流通し消費された時代である近世や近代の貝塚の性格について考えてみたい。

１．近世の貝塚から何がわかるか

江戸を中心とする近世遺跡から、どのような動物遺体が出土するかについては、金子浩昌先生の著作（金子 1991・1992・2001 など）を参照していただくこととし、ここでは近世の貝塚（ゴミ穴）から出土する動物遺体を検討する際の論点をあげてみたい。

（１）消費の場

近世の貝塚（ゴミ穴）において、まず考えなければならないのは貝塚（ゴミ穴）がどこに存在するか、すなわち「消費の場」の問題である。江戸遺跡の場合は大名屋敷や旗本屋敷なのか、寺社地であるのか、町人の暮らした町屋なのかという遺跡の性格によって出土遺物の内容が異

なる。さらに、大名屋敷の場合は、上屋敷・中屋敷・下屋敷の区別があり、それぞれの位置づけや居住者が異なる。また、同じ大名屋敷から出土した遺物でも本殿で消費された遺物なのか足軽長屋で消費された遺物なのかによっても内容が異なる点にも注意を要する。

ここでは大名屋敷の事例として、東京都港区郵政省飯倉分館構内遺跡（桜井 1987・1992）と文京区東京大学本郷構内理学部７号館地点（秋元 1992）を比較してみたい。なお、郵政省飯倉分館構内遺跡は米沢藩上杉家中屋敷および臼杵藩稲葉家下屋敷にあたり、東京大学本郷構内理学部７号館地点は加賀藩前田家上屋敷の「御貸小屋」（江戸在住藩士の住まい）にあたる。郵政省飯倉分館構内遺跡から出土した魚貝類は次のようなものである。

魚類：マイワシ、アナゴ科、ウツボ科、サケ科、コイ、エソ科、ボラ科、カマス科、アマダイ科、ブリ、アジ科、スズキ、アラ、クロダイ、マダイ、ソウダガツオ属、カツオ、マグロ属、マサバ、コチ、メバル、マダラ、ヒラメ科、カレイ科、アンコウ目

貝類：アワビ、キサゴ、サザエ、ツメタガイ、ボウシュウボラ、アカニシ、バイ、サルボウ、アカガイ、タイラギ、イタボガキ、マガキ、ハマグリ、カガミガイ、アサリ、シオフキ、オオノガイ、ヤマトシジミ

このうち、魚類ではマダイが全体の約半数を占め（前上顎骨で 56.0%、歯骨で 44.2%）、貝類ではハマグリが多く（3056 個体）、アワビ・サザエ・アカガイなどの高級な食材が目立つことが特徴である。そのため、その多くが宴会や儀式など「ハレ（非日常的）」の食事に供されたものが主体を占めると推定された。これに対し、東京大学本郷構内理学部７号館地点から出土した魚類は次のようなものである。

17 世紀代の陶磁器を伴う遺構：

ウナギ亜目、サケ科、コイ目、ナマズ、タラ科、マダラ、スケトウダラ、カマス科、アカカマス、ブリ属、アマジ属、シイラ、タイ科、キダイ、マダイ、サバ属、サワラ、マグロ属、コチ、カレイ目、フグ科、真骨類

18 世紀代の陶磁器を伴う遺構：

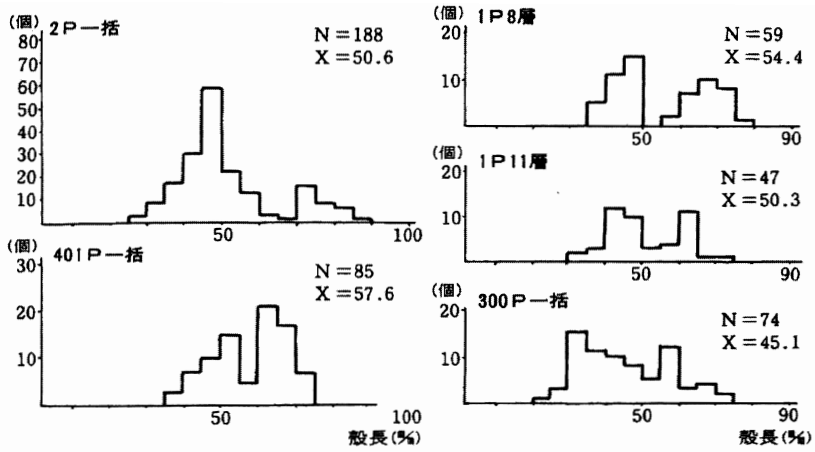
ウナギ、ドジョウ科、マイワシ、サケ科、コイ目、ナマズ、ニシン科、タラ科、マダラ、スケトウダラ、ブリ属、マアジ属、シイラ、タイ科、マダイ、クロダイ属、サバ属、カツオ、マグロ属、コチ、カレイ目、フグ科、真骨類出土量ではタイ科のキダイとマダイ、タラ科のマダラ、スケトウダラが若干多くなっているが、郵

政省飯倉分館構内遺跡と比較する

とマダイが特に多く出土しているわけではなく、その多くが加賀藩士の「ケ（日常的）」の食事に供されたものと考えられる。

また、その屋敷が特殊な目的で使用された場合、その性格は直接的に出土遺物に反映される。例えば、東京都文京区動坂遺跡からはスズメとハトが多く出土しているが、その理由としてこ

の地点が御鷹匠屋敷であり、これらの鳥類は鷹の餌ではなかったとされている（金子 1992）。同様に、東京都葛飾区葛西城址では解体痕のあるイヌ・ネコ・カラスの骨が出土しており、葛西城址が将軍の鷹狩りの拠点となっていたことから、これも鷹の餌であったとされている（金子 1992）。



第１図　郵政省飯倉分館構内遺跡出土ハマグリの殻長分布(桜井 1992)

（２）流通と消費

近世になると様々な物資が全国に流通するようになってくるが、魚貝類などの食材もその例外ではない。ただし、「生もの」である魚貝類は流通過程で傷んでしまうため、当時は干物や塩漬けにするなど様々な保存の方法がとられた。発掘調査で出土した魚類が「生もの」であったか塩漬けや干物であったかを区別することは難しいが、江戸遺跡から出土するサケやサバの中には塩ザケや塩サバ、フグの中には干物として地方から送られてきた可能性がある。また、マグロなどの大型の魚が切り身で購入されるなど販売方法や調理方法については、魚種ごとにどのような部位が出土しているか、あるいは魚骨にみられる包丁の切断痕の分析よって検討することができる。

また、魚貝類の流通と消費の問題を考える場合に考慮しなければならないこととして、商品として売られていた魚貝類がその種類だけではなく大きさで選別されて売買されていたという点がある。この点を明らかにしてくれたのは前述した郵政省飯倉分館構内遺跡のハマグリの事例である。ここでは出土したハマグリの大きさ（殻長）を出土遺構や出土層位ごとにヒストグラムを作成したところグラフが二つのピークを持つ双峰形となることがわかった（第１図）。これは当時ハマグリが大型のもと小型のものに選別されていたことを示すもので、大型のものが「焼き蛤用」、小型のものが「吸物用」として売買されていたと推定される。

（３）消費者の嗜好とその変化

近世においては身分や階層によって意識的に食べなかった食材が存在した。例えば、武士階級はフグやコノシロを食べなかったとされる（フグはその毒によって命取りになり「お家断絶」につながり、コノシロは「此の城」に通じ縁起が悪いため）。しかし、大名屋敷の遺跡の多くからフグが出土しており、その実態は若干異なるようである。また、天武天皇の「殺生禁止令」（675）以来、わが国では仏教の教えから四足動物に対する禁忌が存在したとされている。しかし、実際には、江戸時代には牛肉の「薬食い」が存在し、猪は「山鯨」や「牡丹」、鹿は「紅葉」、馬は「桜」と称して食されており、江戸の「ももんじや」では鹿・猪・熊・兎などの野獣を扱っていた。このことを発掘調査によって実証したのが大量の動物骨が出土した新宿区三栄町遺跡である。この地は御家人屋敷であったが、骨集積からはイノシシ 97 頭、シカ 71 頭、カ

モシカ11頭、ツキノワグマ3頭、オオカミ3頭、タヌキ・キツネ・カワウソが数個体出土している（金子 1992・2001）。

また、身分や階層ではなく、消費者の出身地が出土する動物遺体に反映されるという興味深い事例が存在する。それは前述した文京区東京大学本郷構内理学部7号館地点の事例であり、そこからはマダラやスケトウダラが比較的多く出土しているが、これが加賀藩のあった北陸地方で一般的に食された魚種である（秋元 1992）。これは消費者すなわち江戸在住の加賀藩士の嗜好が出土遺物に反映された事例として注目される。

出土区	マダイ		カツオ		ソガツウダオ	マダラ		カレイ目		クロダイ		マグロ	土壙年代
	pm	d	pm	d	ce	pm	d	pm	d	pm	d	ce	
15P	2	4							1				17世紀前半
2P	2	5				2		2					17世紀後半～18世紀前半
95・96P	2	11	1				2	1	1				17世紀後半～18世紀前半
1D	1	1	1	1									17世紀後半～18世紀前半
401P	4	8			1	1				1			18世紀前半～中葉
402P	3	3			1		1						18世紀前半～中葉
1P	55	40	11	12	31	8	8						18世紀前半～中葉
N16P		2	1								1		18世紀後半以前？
N35P		1		1									18世紀後半
N22P	3	1						1	1				18世紀後半
N24P	1	1											18世紀後半
N26P	4	4						3	1				18世紀後半
300P												2	18世紀後半～19世紀
N40P											1	3	18世紀末～19世紀初頭
N18P	2	1								1	1	4	18世紀末～19世紀初頭
N44P	2	2							1	1		7	18世紀末～19世紀初頭
N21P	2	1	1									2	19世紀前半
N38P		1											19世紀前半
N41P	1	2										1	19世紀前半
N36P		1		1				1				3	19世紀前半
N45P	2	3	1	1					1	1		4	19世紀前半
N46P	1	1							1	1		1	19世紀前半

注　pm-前上顎骨　d-歯骨　ce-椎体

第1表　郵政省飯倉分館構内遺跡の魚類出土状況(桜井 1992)

さらに、消費者の食物嗜好の変化を動物遺体の分析を通じて明らかにすることもできる。わが国で好まれる魚というと、中世においては鯉、近世においては鯛とされている。現在においても鯛は婚礼などの祝い事には欠かせない魚であるが、最近ではマグロを好む人が多い。しかし、マグロはかつて下魚として疎まれた存在であり、延享年間（1744～48）の『江府風俗誌』では「鮪や甘藷、南瓜などは甚下品な食物にして町人も表店住の者は、食する事を恥じる体也」とされていた。しかし、文化7年（1810）に「此の冬、マグロの魚漁ある事夥し。総豆相の三州にて一日一万本を獲るといへり」(『武江年表』) とあり、この頃から一般に食されるようになり、同年の『飛鳥川』には「昔はまぐろを食たるを、人に物語するにも、耳に寄って、窃に咄たるに、今は歴々の御料理に出るもおかし」という記載がある。その後 安政年間（1854～60）には鮨屋でマグロの「ズケ」が登場するなど幕末から明治にかけてマグロが普及し、戦後になると冷凍技術の発達や肉食の普及にともなってトロが流行するようになる。このような、マグロにかかわる消費者の嗜好の変化が示されたのが前述した郵政省飯倉分館構内遺跡であり、17世紀前半から19世紀前半にわたる土坑から出土した魚類の中でマグロが出現するのが18世紀後半から19世紀にかけてであり（第1表）、文献史料の記述と一致している（桜井 1987・1992）。

このように、文献史料などで示されている当時の食生活にかかわる事項が近世貝塚の発掘調査によって実証されることがあり、逆にこれまでの常識が否定されることもあるが、このことは近世においても貝塚研究が有効であることを示すものである。

２．近代の貝塚から何がわかるか

（１）ヤキバの塚遺跡の調査と成果

三浦半島の先端部に位置する三浦市松輪地区は古くから漁業が盛んであり、延宝２年（1674）には江戸付肴場設立に伴って附浦となり、近世末期に上方漁法の影響を受けてからは漁業が生業のうちに占める割合が高まり、松輪地区は間口湾を拠点的な漁港として発達した漁業の村となった。最近では「松輪サバ」がブランドとして全国的に知られている。本地区の集落の近辺には「ケンガラバ」（写真１）と称される日常的に貝殻や生活財を廃棄する地点が存在する。「ケンガラバ」には谷戸頭や斜面部に廃棄されるものと多量の遺物の廃棄によって塚状の盛り上がりを呈するものが認められる。三浦の塚研究会ではその形成時期や性格が不明瞭であったこれらの塚状の「ケンガラバ」の実態解明のため、2002 年および 2003 年に近代の貝塚であるヤキバの塚遺跡の発掘調査を実施した（藤山・桜井 2003、三浦の塚研究会 2003、藤山 2004、藤山・渡辺ほか 2003、桜井 2007）。

ヤキバの塚遺跡は松輪地区東方の台地上、八ヶ久保集落の東方に広がる畑地に位置する。塚の規模は現状で長さ約 20m、頂部と畑地との比高差は約 2.5mであるが、西側を中心に周囲が耕作によって削られており、かつてはより大きな規模であったと考えられる（第２図）。調査の結果、本遺跡は明治時代から戦後にかけて形成されたものであることが明らかになった（表土層：戦中から昭和 30 年代頃、第１層：戦中頃、第２層：昭和前期、第３a・b 層：大正末～昭和初期、第３c 層：大正後期、第４層：明治末～大正期、第５・６層：明治 30～40 年代、第７・８層：明治 20～30 年代、第９層：明治 10 年代頃）。なお、第３b 層と第３c 層の間に硬化面は関東大震災の後片付けにかかわるものと推定される。

出土遺物としては陶磁器やガラス製品を中心とした人工遺物と貝類・魚類を中心とした自然遺物が大量に出土している。出土遺物の中で生活財の変遷を追っていくと、灯明皿やランプが電燈に変化するなど三浦半島の漁村部で近世的生活が近代（現代）的生活に変化する時期として大正期頃がその転換期として位置づけられることがわかった。また、この塚は「ゴミ捨て場」として単純に捉えられない側面を持っていることもわかった。塚には参道が作られ明和４年（1767）の銘のある地蔵が安置されており、毎年８月の盆の 16 日にはその地蔵の周囲に盆で使用した飾りや供物が並べられている（「オショロ流し」）（写真２）。この塚からは子ども茶碗・おはじき・ビー玉からファミコンのカセットにいたる「子ども」に関連する遺物が多く出土しており、地蔵近くの斜面から戦後の西洋人形も掘り出されている。このように、この場では比較的最近まで子どもの所有していた人形や玩具を「送る」行為が行われていたようである。出土した遺物が「廃棄」によるものか「送り」によるものなのかという問題は縄文時代の貝塚研究においても話題になるが、この塚も単に生活財の「廃棄の場」というだけでなく、「送り場」

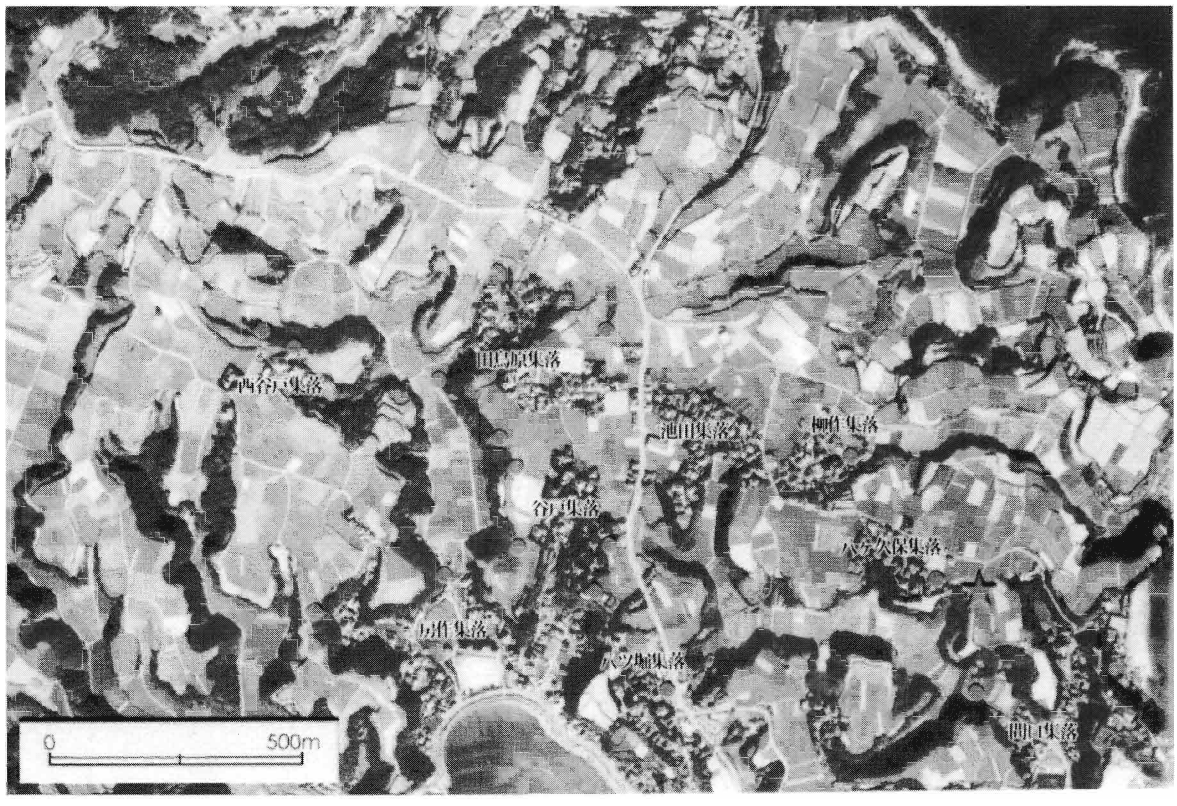
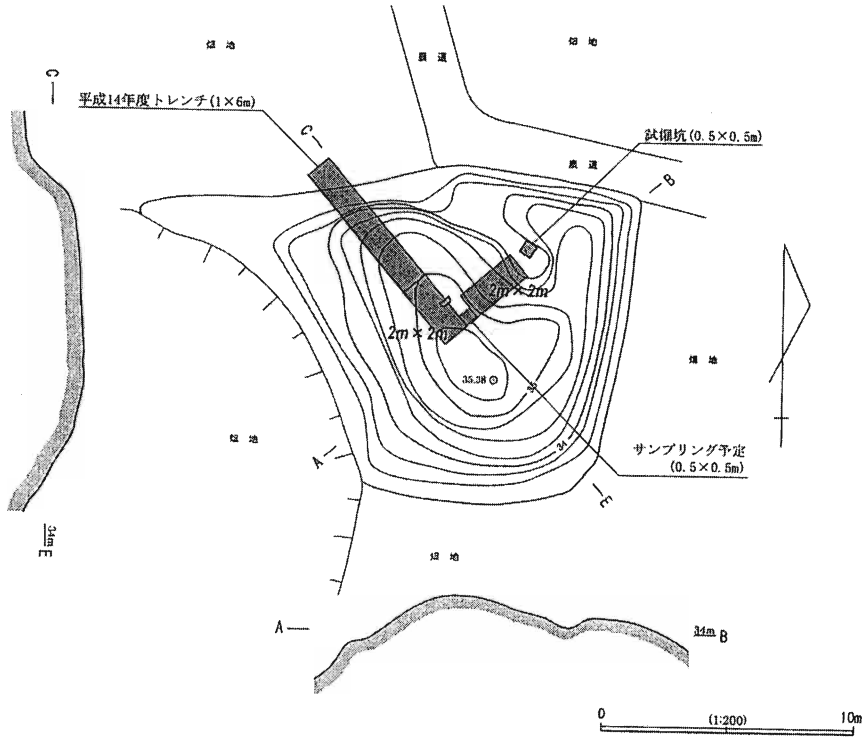


写真１　ゲンガラバの分布　（星印はヤキバの塚遺跡）



第２図　ヤキバの塚遺跡平面図

としての側面をもっていることがわかる。

（2）出土した魚貝類の分析

自然遺物の分析からも多くの興味深い調査結果が得られている。まず、魚類では次のような種類が出土している。

写真２　盆のオショロ流し

ウツボ科・ニシン科・マイワシ・サケ科・マトウダイ科・フカカサゴ科・スズキ属・アマダイ科・シイラ属・アジ科・ブリ属・タイ科・クロダイ属・マダイ・タカノハダイ属・イシダイ属・メジナ属・ベラ科・ブダイ科・サバ属・カツオ・カレイ科・ヒラメ科・カワハギ科・ウマズラハギ・カワハギ・ハコフグ科・フグ科

出土量ではカワハギ科を筆頭にサバ属・タカノハダイ属・フサカサゴ科の占める割合が高い。明治13年（1880）の松輪村の漁業生産暦（第２表）をみると、この地域では釣漁、延縄漁、網漁などが行われており、漁獲対象として３月から10月はイワシ、４月から６月まではサバやイサキ、５月から６月はヒラメ、９月から５月はタコ、７月から10月はシビ、９月から６月まではタイ、10月から１月まではカサゴ、12月から２月まではブリ、通年のエビなどとなっており、その中でもエビ、タイ、ヒラメ、イサキ、カサゴ、サバなどが沿岸漁業の中心的存在であったことがわかる。これらを実際に遺跡から出土した魚類と比較すると重なる魚種も多いが、遺跡から出土した魚種には市場では通常取り引きされないものが含まれている。また、かつてはこの地域の漁獲の中心的存在であったマダイの占める割合は低く、代わりにカ

No.	魚種・漁法	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
1	しびなわ													
2	たいなわ													
3	はらきなわ													
4	ぶりなわ													
5	小なわ													
6	かさごなわ													
7	七目網													
8	たい網													
9	えび網													季節限なし
10	手操網													
11	たこ釣													
12	ひらめ釣													
13	小釣													
14	小釣のうちいさき													
15	いわし網													
16	こませ													限なし
17	菱突													
18	海士													
19	さばなわ													
20	たたき網													
月別の漁法頻度		11	10	12	13	13	11	7	8	9	14	10	11	

第２表　明治13年における松輪村の漁業生産暦

（三浦市教育委員会　1987）

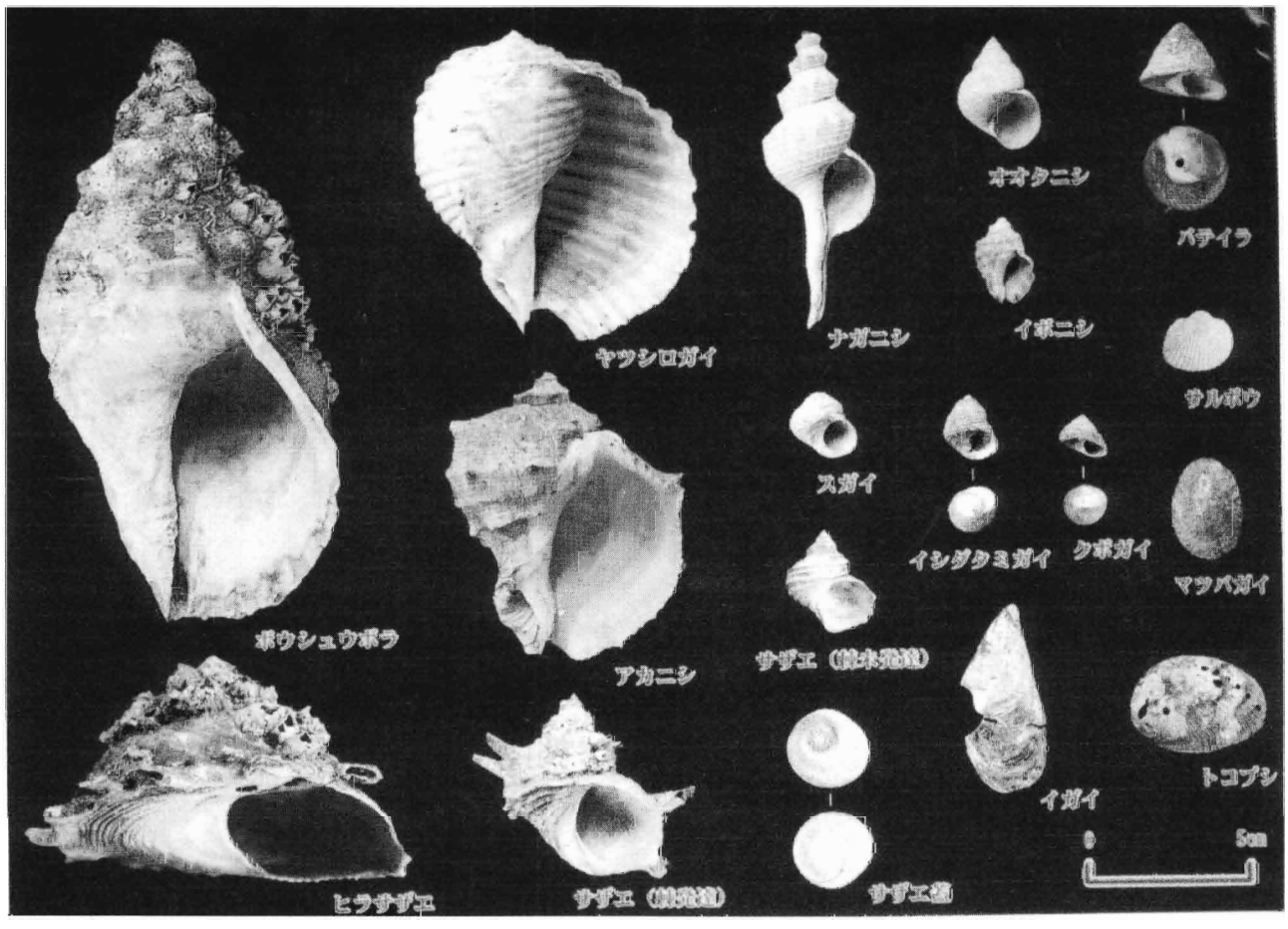


写真３　ヤキバの塚遺跡出土貝類

ワハギ科魚類が多量に出土しているという傾向がみられる。さらに、魚の大きさが全体に小振りである点も指摘できる。例えば、サバ属に関しては椎体による体長推定の結果、体長30ｃｍ以下の小型のサバがほとんどであることが判明している。このように、ヤキバの塚遺跡から出土した魚類は商品にはならない魚種や大きさのものが主体となっており、それに加えてサケのように商品として魚屋などから購入したもので構成されることがわかる。これに対し、本遺跡から出土した貝類は次のようなものである（写真３）。

巻　貝：ヤツシロガイ・ヒラサザエ・アワビ・トコブシ・マツバガイ・ベッコウガサガイ・ヨメガカサ・ウノアシガイ・ユキノカサガイ・エビスガイ・イシダタミ・クボガイ・クマノコガイ・コシダカガンガラ・バテイラ・スガイ・コシダカサザエ・ハリサザエ・アマガイ・オオタニシ・オオヘビガイ・ウミニナ・ホシキヌタガイ・ツメタガイ・カコボラ・オオナルトボラ・アカニシ・イソバショウガイ・レイシ・イボニシ・イソニナ・ナガニシ

二枚貝：カリガネエガイ・サルボウ・イタヤガイ・ヤマトシジミ・ハマグリ・オニアサリ・

アサリ・ウチムラサキ・シオフキ・バカガイ・ミルクイガイ・アカガイ・ベンケイガイ・マガキ・イワガキ・イガイ・サラガイ

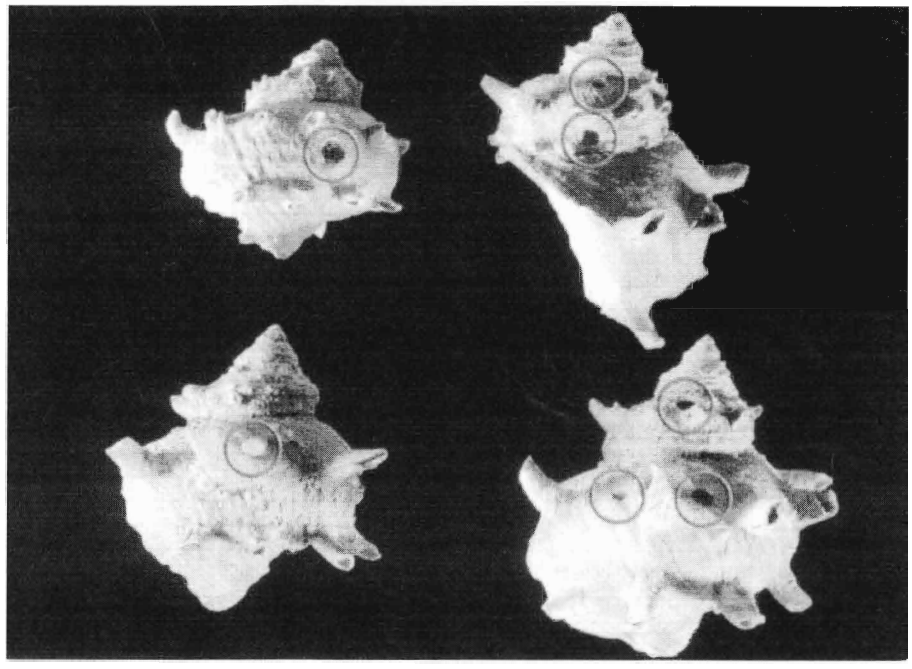


写真４　貝突き漁によるサザエ

貝類組成を検討すると、サザエを主体にボウシュウボラが多く出土している。このうち、サザエは現在、商品として流通しているが、その商品価値が高まったのは戦後になってのことである。また、ボウシュウボラも現在は漁獲量が少なくなってきたが、戦前はよく食べられていた貝類であり、大正期以前は大量に自家消費されていたという。なお、ボウシュウボラは水深5mから30mくらいの深い外洋に生息するために、見突き漁（船上よりメガネを用いて海底をのぞき、磯魚を突いたり、貝類、藻類等を捕採する漁）や潜水漁法で大量に採取することは難しく、イセエビなどの刺網に付着してものを採取していたことが多かったと推定される。これに対し、古くから商品価値の高かったアワビは大量に採られたが、ほとんどが市場へ運ばれており、本遺跡から出土したアワビはわずかである。なお、出土したサザエの中に穿孔された資料が混じっているが、これらは見突き漁の際に誤って穴を開けてしまったものである（写真４）。また、比較的多く出土しているものの市場に流通しない小型の巻貝などは料理でダシをとるために使用されていたと考えられる。

（３）漁村の食生活

このような近代の貝塚（ヤキバの塚遺跡）から出土した魚貝類に関する分析結果は、漁村における食生活の実態を解明する貴重な手がかりを与えてくれる。まず、貝塚からは市場では取り引きされない種類や大きさの魚貝類が多く出土している。すなわち、漁獲量統計はあくまで出荷されて消費地へ送られる魚貝類の漁獲量であり、自家消費される魚貝類はここには含まれないのである。このことは松輪地区の食事献立に関する聞き取り調査の結果をみても頷ける。農山漁村文化協会の『聞き書　神奈川県の食事』（遠藤ほか1992）によると、昭和初期の松輪地区の食卓に登場してくる魚貝類は、日常食でアイナメ、カタクチイワシ、イワシ、アジ、サバ、行事食でサザエ、カサゴ、メバル、ヒラメである（第３表）。このうち、日常食については実際にはもっと多くの魚種が食卓に上ったと思われるが、日常食に高級な魚貝類は登場しなかったと思われる。また、行事食についてはサザエやヒラメは登場するがアワビやマ

季節	種類		食事の内容	登場する魚貝類	備考
冬	日常食	朝	麦飯、味噌汁、たくあん、ときにはごぼう味噌か鉄火味噌		
		昼	麦飯、味噌汁、大根なます、たくあん		
		間食	さつまいものふかし、やきもちなど		
		夜	麦飯、ちゃうろ(汁) またはごった煮(けんちん汁)、たくあん	あいなめ(ちゃうろ)	
		夜食	そばがき		
	行事食	正月	雑煮、煮しめ、磯なます	さざえ(磯なます)	1月1日
		元服式	煮魚や焼き魚	かさご、めばる、ひらめ	1月15日
		節分	小豆飯、ごった煮		2月3日
		いなりっこ	小豆飯、五色の煮しめ	魚(煮しめ)	2月11日
春	日常食	朝	麦飯、味噌汁、たくあん、はばのり		
		昼	麦飯、味噌汁、目刺し、たくあん	かたくちいわし(目刺し)	
		こじはん	さつまいものふかし、あられなど		
		夜	麦飯、味噌汁、さんが、たくあん	いわし(さんが)	
	行事食	ひな祭り	五目飯(五目すし)		3月3日
		彼岸	ぼたもち(18日)、小豆飯(21日)、だんご(24日)		3月18～24日
		おかぐら	こわ飯、煮しめ		4月10日、神明神社の祭り
		男の子の節句	かしわもち		5月5日
夏	日常食	朝	麦飯、味噌汁、たくあん		
		昼	麦飯(または つけうどん)、味噌汁、なますのごまよごし、きゅうりとなすのぬか味噌		
		こじはん	とこてん、じゃがいものゆでたもの		
		夜	麦飯、味噌汁、魚の煮つけ、きゅうりとなすのぬか味噌	あじ・いわし(煮つけ)	
	行事食	おかぐら	煮しめ、煮魚(尾頭つき)、こわ飯	あじ・かさご(煮魚)	7月10日、神明神社の祭り
		お盆	野菜の煮しめ、かぼちゃの煮つけ、きな粉だんご、小豆だんご		8月13日～16日
秋	日常食	朝	麦飯、味噌汁、たくあん、はりはり漬		
		昼	麦飯、味噌汁、おろぬき大根のごまよごし、たくあん、はりはり漬		
		こじはん	いもだんご、親子だんご、あわおこわ		
		夜	麦飯(または煮込みうどん)、味噌汁、さばの味噌煮、たくあん	さば(味噌煮)	
	行事食	十五夜・十三夜	ぼたもち		旧暦8月15日・9月13日
		二十三夜お日待講	小豆飯、煮しめ		9月23日
		おかぐら、龍宮さま	こわ飯、煮しめ、煮魚(尾頭つき)	魚(煮魚)	11月26・27日、神明神社の祭り(龍宮さま27日)
	行事食	庚申さま	五目飯または小豆飯		1か月おき(庚申の日)

第3表　昭和初期の松輪の食生活（遠藤ほか 1992 より作成）

ダイは登場していない。これらは聞き取り調査されていない婚礼の席に登場した可能性がある。いずれにしろ、この調査はあくまで当時の代表的な食生活についての聞き取り調査であり、ここからは日常的に消費された魚の種類や大きさなどの詳細な情報は得られない。その意味で、近代貝塚から出土する動物遺体は近代漁村における魚貝類の消費実態を知る貴重な資料ということになる。

おわりに

近世から近代にかけての貝塚から得られる情報は、それ以前の貝塚から得られるものと異なる点が多い。その理由として、第一に漁獲物の多くが商品として流通し、消費地で消費されることがあげられる。そして、消費者の身分や階層・出身地・経済状態、宴会や儀式（ハレ）の食事と日常（ケ）の食事、あるいは時代による嗜好の変化が存在し、それに伴って消費される食材も異なっていた。また、こうした消費地にかかわる様々な問題の背景には生産地における近世から近代にかけて起こった漁業技術の変革がある。具体的には、新たな漁法の導入、漁具の改良、そして沿岸から沖合・遠洋への漁場の変化を

もたらした動力船の導入である（松輪地区では大正5・6年頃からサバ漁、大正10年頃からカツオ・マグロ漁に導入）。また、製氷機の登場（明治44年および昭和8年に三浦製氷株式会社が設立）や昭和29年の船内急速冷凍技術の開発も近代漁業に画期をもたらした。

このように、近世や近代の貝塚から得られる様々な情報は文献史料の多い時代にあっても、当時の漁業や食生活について知るために重要であることは明らかである。今後は学際的研究を視野に入れながら、近世・近代貝塚の調査研究が発展することを期待したい。

謝辞

ヤキバの塚遺跡出土の貝類については渡辺直哉氏（三浦市教育委員会）、魚類については山崎 健氏（奈良文化財研究所）の鑑定結果を使用させていただいた。

参考文献

秋本智也子　1992　「加賀藩上屋敷「御貨小屋」における食生活の一端」江戸遺跡研究会（編）『江戸の　食文化』吉川弘文館

遠藤 登ほか　1992　『聞き書　神奈川県の食事』農山漁村文化協会

金子浩昌　1991　「江戸市中の動物＜魚貝類と鳥・獣類＞」江戸遺跡研究会（編）『甦る江戸』新人物往来社

金子浩昌　1992　「江戸の動植物質食料―江戸の街から出土した動物遺体からみた―」江戸遺跡研究会（編）『江戸の食文化』吉川弘文館

金子浩昌　2001　「食物残滓とその他の動物遺体」江戸遺跡研究会（編）『図説 江戸考古学研究事典』柏書房

関東農政局神奈川統計情報事務所　1973　『松輪の釣り漁業』

関東農政局神奈川統計情報事務所横須賀出張所　1976　『三浦地域における農業と漁業の実態』

桜井準也　1987　「近世大名屋敷における食生活－港区郵政省飯倉分館構内遺跡出土の動物遺存体を中心に－」　三田史学会『史学』57巻1号

桜井準也　1992　「遺跡出土の動物遺体からみた大名屋敷の食生活―動物遺体分析の成果と問題点―」江戸遺跡研究会（編）『江戸の食文化』吉川弘文館

桜井準也　2007　「近現代の貝塚にみる漁民の暮らし―神奈川県三浦市における調査事例から―」『明日への文化財』57号

辻井善弥　1977　『磯漁の話』北斗書房

藤山龍造　2004　「考古学からみた近現代の漁村」『考古から近世・近代へのアプローチ』神奈川県考古学会

藤山龍造・桜井準也　2003　「ゴミ穴から塚へ－三浦半島における近現代貝塚の調査から－」『江戸遺跡研究会第16回大会　遺跡からみた江戸のゴミ〔発表要旨〕』江戸遺跡研究会

藤山龍造・渡辺直哉・朽木量・須田英一・桜井準也　2003　「近現代考古学の可能性－三浦半島における貝塚の調査から－」『第27回神奈川県遺跡調査・研究発表会 発表要旨』神奈川県考古学会

三浦市　1974　『目で見る三浦市史』
三浦市教育委員会　1987　『三浦市民俗シリーズ（Ⅲ）海辺のくらし―松輪民俗誌―』
三浦の塚研究会　2003　『漁村の考古学　三浦半島における近現代貝塚調査の概要』
山崎健・織田銑一　2006　「第８回動物考古学研究集会開催報告発表要旨　近現代考古学における魚類流通モデル試論―神奈川県ヤキバの塚遺跡を事例として―」『動物考古学』第 22 号
渡辺直哉　2004　「三浦半島における漁業史の民具学・考古学的研究―神奈川県三浦市南下浦町松輪に所在するヤキバの塚遺跡を中心にして―」『日本民具学会第 29 回大会　講演・研究発表等要旨』日本民具学会
渡辺直哉　2005　「都市近郊漁村における村落生活－神奈川県三浦市における近現代貝塚の調査事例から－」メタ・アーケオロジー研究会（編）『近現代考古学の射程～今なぜ近現代を語るのか～』六一書房
渡辺直哉・山崎健　2006　「第８回動物考古学研究集会開催報告　発表要旨　近現代貝塚における軟体動物の研究」『動物考古学』第 22 号

神奈川県貝塚発見順一覧表

岡本孝之

1　本表は、神奈川県の貝塚を発見年代順に並べたものである。一部、報告年、発掘年を発見年としたものがあり、発見は遡る可能性がある。

貝塚は縄文時代から奈良・平安時代までを対象とした。

2　地域を、次の３地域に分けた。

東京湾岸（川崎市、横浜市）

三浦半島（横浜市金沢区、横須賀市、三浦市、葉山町、逗子市）

相模湾岸（鎌倉市、横浜市戸塚区、藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町、平塚市、伊勢原市、二宮町、小田原市）

3　本表は、神奈川県立歴史博物館 2008『神奈川県貝塚地名表』をもとに作成した。若干の追加訂正がある。文献は、著者名・発行年で示した。同書の文献欄を参照されたい。

本表の初出文献欄では「貝塚の会 2008」と略称している。

4　今後の課題

(1) 古く発見された貝塚で、広域地名などのため位置を確定できないものがある。『神奈川県貝塚地名表』には掲載されていない。

阿部正功 1893 の鶴見区東寺尾、神奈川区子安

内山九三郎 1894 の鶴見区上末吉

小林與三郎（東大 1901）の鶴見区東寺尾原

(2) 所在位置を確認できない貝塚が 15 件ある。『神奈川県貝塚地名表』には位置不明とした。

59 神隠（北）、66 獅子ヶ鼻、67 六万ノ原、76 佐江戸、110 倉畑、124 番神台（西）、138 綿内谷、141 北寺尾神明社、152 鳥越町、167 ヤブシタ、169 大谷戸、200 柿ヶ谷、214 諸口、240 佐野、278 藤沢

(3) 現状を確認できなくても地図、地名・地番などで位置を推定した貝塚があり、分布図に示した。『神奈川県貝塚地名表』には未確認としている。

(4) 別名称で重複して登録された貝塚がある。

	名　称	発見者	年	初出文献	東大地名表	酒詰1938	石野瑛1953	酒詰1959	県71	横浜市04	貝塚の会
1	根岸	ミルン	1879	ミルン1881	(東大1897)	坂ノ台	根岸坂の台	坂ノ台	中6	中8移動	◎坂の台
2	森	ミルン	1879	ミルン1881		森■		屏風ヶ裏森	なし	なし	◎森
3	末吉	ミルン		ミルン1880		小仙	小仙塚	小仙塚	鶴11	鶴78	◎小仙塚
4	中村(八幡社付近)	富士谷孝雄	1883	富士谷1883	東大1897	中村■	八幡神社付近	中村八幡社近傍	なし	なし	中村八幡社付近
5	高田	人類学会	1885	坪井86若林92	東大1897	中居根	中井	高田	港154	港北2	◎高田
6	税関山	人類学会	1886		東大1897	池ノ坂	池の坂	池ノ坂	西3	西10	◎池ノ坂
7	二の谷入口	坪井正五郎		坪井1888	東大1901	二ノ谷	二の谷	二の谷入口	なし	なし	二の谷
8	南太田	井上・鳥居	1893	井上鳥居1893A	なし	太田■		横浜南太田	なし	南6	◎清水ヶ丘
9	中村藤塚東方	井上・鳥居	1893	井上鳥居1893A	東大1898	稲荷山	藤塚付近、稲荷山	横浜稲荷山	南9	南42	◎稲荷山
10	駒岡(長塚原)	井上・鳥居	1893	井上鳥居1893B	東大1897	駒岡	駒岡八千代田	駒岡	鶴1	鶴29移動	◎駒岡
11	長尾	井上・鳥居	1893	井上鳥居1893B	東大1897誤	長尾　誤		権現台　誤			(東大1897の誤認)
12	馬場	阿部正功	1893	阿部1893	東大1897	馬場■		馬場(北)	なし	鶴59隣接	◎馬場
13	子安	阿部正功	1893	阿部1893	東大1897	■			不明	不明	■風早台？
14	折本	阿部正功	1893	阿部1893B	東大1897	折本	折本	折本	緑	都築379	◎折本
15	東寺尾	阿部正功	1893	阿部1893	東大1897	■			不明	不明	■不明
16	西寺尾					■					
17	樽	内山九三郎		内山1894	東大1897	樽	樽	樽	なし	なし	◎樽
18	二見台	内山九三郎		内山1894	東大1897	二見台	二見台	二見台	鶴33	鶴92	◎二見台
19	矢上谷戸	内山九三郎		内山1894	東大1897	谷戸	矢上谷戸	谷戸	港9	港北34	◎矢上谷戸
20	箕輪	内山九三郎		内山1894	東大1897	箕輪	箕輪	箕輪	港23	港北39	◎箕輪
21	篠原	内山九三郎		内山1894	東大1897	富士塚	表谷東西	富士塚			表谷など
22	南綱島	内山九三郎		内山1894	東大1897	南綱島■	南綱島	南綱島	港	港北140	■南綱島
23	師岡	内山九三郎		内山1894	東大1897	師岡	師岡	師岡	港49	港北183	◎師岡
24	上末吉	内山九三郎		内山1894	東大1897	■			不明	不明	上台？
25	マカドヒラダイ				東大1897	平台	緑が丘	間門平台	中	中12	◎平台
26	帷子	沼田頼輔		東大1898	東大1898	保土ヶ谷ゴルフ場	帷子、常盤台	保土ヶ谷ゴルフ場	なし	保33	◎保土ヶ谷
27	生麦瀧坂	沼田頼輔		東大1898	東大1898	風早台	風早台、打越	風早台	鶴34	鶴108	◎風早台
28	鶴見三笠園	小林與三郎		東大1898	東大1898	三笠園内■		鶴見三笠園内	鶴32	鶴109	◎生麦平台
29	ヤブシタ	小林與三郎		東大1898	東大1898	藪下町■		藪下町	不明	なし	■池之坂か
30	元町	小林與三郎		東大1898	東大1898	山手町	金刀比羅社裏	山手町	中8	中2	◎元町
31	山手	小林與三郎		東大1898	東大1898	山手町	異人坂	山手町	中7	中3	◎山手
32	野毛山大神宮裏手	小林與三郎		東大1898	東大1898	伊勢山大神宮	伊勢山大神宮本殿	伊勢山大神宮裏手	西4	西14	◎伊勢山皇大神宮
33	堀ノ内村	小林與三郎		東大1898	東大1898	女坂など■	爆発物、貝殻畑	女坂など	なし	なし	■不明

	名　称	発見者	年	初出文献	東大地名表	酒詰1938	石野瑛1953	酒詰1959	県71	横浜市04	貝塚の会
34	柿ヶ谷	小林與三郎		東大1898	東大1898	柿ヶ谷■		柿ヶ谷	なし	なし	■不明
35	三殿台	藤田清八		藤田1899	東大1901	岡村三殿台	三殿台、竹橋、岡村	岡村三殿台	磯1	磯1	◎三殿台
36	宝泉寺台	中沢・森		東大1901	東大1901	寶泉寺台■	上台	宝泉寺台	鶴2	鶴71	◎上台
37	月見ヶ丘(蛇池ノ上)	小林與三郎		東大1901	東大1901	(三笠園内)	月見が丘	月見ヶ丘	鶴24	鶴87	◎月見ヶ丘
38	鶴見	小林與三郎		東大1901	東大1901	なし		鶴見総持寺内	なし	鶴98	◎鶴見
39	面瀧稲荷山	小林與三郎		東大1901	東大1901	面瀧稲荷山■	稲荷山、面瀧西	面瀧	なし	神55	面瀧
40	東寺尾原	小林與三郎		東大1901	東大1901	(荒立台上)			不明	不明	荒立
41	那古松山	江見ほか		江見他1904	東大1928	(杉田)		那古松山	なし	なし	妙法寺裏山(推定)
42	吉田	江見		江見他1904	東大1917	吉田貝塚	新吉田町貝塚	吉田貝塚			◎吉田貝塚
43	大岡川村別所	江見		江見他1904	東大1928	なし	別所町	なし	なし	南37移動	矢畑
44	白幡	吉田文俊		吉田1905	なし	白幡町■		白幡町	不明	不明	白幡西
45	下菅田	吉田文俊		吉田1905	東大1928	下菅田	下菅田	下菅田	神19	神12	下菅田稲荷山
46	軽井沢	マンロー		マンロー1908	なし	(西軽井沢)		(西軽井沢)	西2	西2	南軽井沢
47	三ツ沢	マンロー	1905	マンロー1908	東大1928	三沢	三沢	三沢	神4	神68	◎三ツ沢
48	川和	江見水蔭		江見		川和■		佐江戸			
49	池ノ端	江見水蔭	1908	江見1909	なし	池ノ端		池ノ端	鶴13	鶴77	◎別所池端
50	矢向	山田蔵太郎	1922	山田1927	なし	矢向■		矢向	なし	なし	◎矢向
51	浅野造船所水道	山田蔵太郎	1922	山田1927	なし	浅野水道■		浅野水道	なし	なし	◎浅野造船所水道
52	捜真女学校付近		1922	大場1975■	なし	捜真女学校■		捜真女学校付近	なし	神45	■捜真女学校付近
53	蕃神台	谷川磐雄 甲野勇		大場1975 甲野1924	東大1928	蕃神台	番神台	蕃神台	鶴26	鶴105	◎蕃神台
54	下末吉八幡社境内	塩善次	1923	塩1923	東大1928	なし		なし	なし	なし	◎下末吉八幡神社
55	駒岡八千代田	塩善次	1923	塩1923	東大1928	(駒岡)			鶴1	鶴29移動	(駒岡)
56	蔵畑	塩善次	1923	塩1923	なし	蔵畑・寺ノ谷	桜ヶ丘	倉畑・寺ノ谷	なし	なし	◎桜ヶ丘
57	馬場谷	塩善次	1923	塩1923	なし	(馬場)			なし	なし	■未確認
58	北寺尾神明社境内	塩善次	1923	塩1923	なし	神明社境内■		北寺尾神明社	不明	不明	馬場か
59	池谷	塩善次	1923	塩1923	なし	池ヶ谷■		池ヶ谷	なし	鶴63	池ヶ谷
60	綿打谷	塩善次	1923	塩1923	なし	綿内谷■	綿内谷	綿打谷	なし	なし	■未確認
61	渋沢	塩善次	1923	塩1923	なし	渋沢■		渋沢	なし	鶴50	◎渋沢
62	松蔭寺下	塩善次	1923	塩1923	なし	松蔭寺下		久保下松蔭寺下	なし	なし	◎向谷(寺の北側)
63	松蔭寺傍	塩善次	1923	塩1923	なし	松蔭寺傍■			なし	鶴101	◎松蔭寺傍
64	二本木	塩善次	1923	塩1923	なし	二本木		二本木	鶴30	鶴98	◎二本木
65	倉畑二本木境	塩善次	1923	塩1923	なし	蔵畑二本木境		蔵畑二本木境	なし	鶴95	◎東寺尾中台
66	小谷戸	山田惇		山田1923	なし	小谷戸■		小谷戸	なし	西7か	小谷戸

	名　称	発見者	年	初出文献	東大地名表	酒詰1938	石野瑛1953	酒詰1959	県71	横浜市04	貝塚の会	
67	池ノ上	山田惇		山田1923	東大1928	池ノ上■		池ノ上	西8	西7移動	◎池ノ上	
68	岸	谷川磐雄	1924	大場1975	なし	岸	岸	岸	なし	鶴110	◎岸	
69	末吉別所	谷川磐雄	1924	大場1975	なし	(池ノ端)		なし	なし	なし	◎末吉別所	
70	吉田六間丁	大里・谷川		大里24・谷川25	東大1928	六間丁		六間丁				
71	東根	大里雄吉		大里1924		東根		なし		港北133	◎峯谷	
72	小池踏切付近	谷川磐雄		谷川1926	なし	小池		小池踏切付近	なし	なし	◎小池踏切	
73	六ッ川	横浜考古学	1927	池田1930	なし	六ッ川町	定光寺上尾根道	六ッ川町	なし	南28隣接	◎六ッ川	
74	稲荷台	梅沢正吉		東大1928	東大1928	稲荷台■	境の谷	稲荷台	西6	西8	◎稲荷台	
75	仏向	沼田・柴田		東大1928	東大1928	仏向	仏向	仏向	保6	保42	◎仏向	
76	池之坂	山田惇		東大1928	東大1928	(池ノ坂)			西3	西10	◎池之坂	
77	新羽原	谷川磐雄		谷川25東大28	東大1928	北新羽	新羽原	北新羽			新羽原	
78	宮田町	松下胤信		松下1929		宮田町■		宮田町	なし	なし	◎宮田	
79	北軽井沢	松下胤信		松下1929		西軽井沢■		西軽井沢	1?	なし	北軽井沢	
80	鶴見神社	松下胤信	1930	松下1930		なし		なし	なし	鶴85	◎鶴見神社	
81	大谷戸	松下胤信		松下1930		大谷戸	大谷戸	大谷戸	西8		大谷戸	
82	南永田山王台	松下胤信		松下1930		南永田■	山王台	南永田	なし	南22移動	◎山王台	
83	東漸寺	松下・尾形		松下・尾形1930		東漸寺	杉田東漸寺	杉田東漸寺		磯43	◎東漸寺	
84	菊名	松下胤信		松下1931		菊名	宮谷、上ノ宮	菊名		港北198	◎菊名	
85	日吉第1号	高橋正人	1931	高橋1931		なし		なし	なし	なし	■日吉第1号	
86	日吉	高橋正人		高橋1931		日吉■		駒林		港北30内	駒林	
87	市場	松下胤信	1934	松下1934		市場		市場町	なし	なし	◎市場	
88	原谷	竹下次作	1934	土岐竹下1934		原谷		原谷	港61	港北213	◎原谷	
89	荒立台上	土岐・竹下	1934	土岐竹下1934		荒立台上	荒立	荒立(台上)	鶴29	鶴97	◎荒立	前出
90	荒立台下	土岐・竹下	1934	土岐竹下1934		荒立台下		荒立(台下)	なし	なし	◎荒立台下	
91	白幡神社鳥居付近	土岐・竹下	1934	土岐竹下1934				東寺尾宮台	なし	鶴67	白幡神社	
92	白幡神社裏参道	土岐・竹下	1934	土岐竹下1934			白幡神社裏	東寺尾宮台	なし	鶴67	◎白幡神社	上と同じ
93	白幡神社裏参道登り口	土岐・竹下	1934	土岐竹下1934		白幡神社裏参道		東寺尾宮台	なし	鶴67	◎白幡神社北	
94	下末吉愛宕神社	池上啓介他		池上他1935		愛宕社■		愛宕社	なし	なし	下末吉愛宕神社	
95	杉田	酒詰仲男	1935	酒詰1935		杉田	杉田	杉田		磯45	◎杉田	
96	新川	酒詰仲男	1935	酒詰1935		新川	新川	新川	なし	なし	新川	
97	笹下	酒詰仲男	1935	酒詰1935		笹下		笹下	なし	磯36隣接	◎笹下	
98	西ノ谷	土岐・竹下		土岐竹下1936		西ノ谷	西谷	山田西ノ谷			西ノ谷	
99	日吉仲ノ谷	西岡秀雄	1936	西岡1955		なし		なし	なし	なし	日吉仲ノ谷	

	名　称	発見者	年	初出文献	東大地名表	酒詰1938	石野瑛1953	酒詰1959	県71	横浜市04	貝塚の会	
100	日吉5丁目	西岡秀雄	1936	西岡1955		なし		なし	なし	なし	日吉5丁目	
101	水道山	池田健夫	1937	酒詰1938		水道山■		水道山	西5	西15	◎水道山	
102	赤沼	竹下次作	1938	酒詰1938		赤沼■	赤沼	赤神	なし	なし	赤沼	
103	上末吉不動堂	酒詰仲男		酒詰1938		不動堂裏		不動堂	なし	鶴25	◎上末吉不動堂	
104	東寺尾別所	酒詰仲男		酒詰1938		東寺尾別所	北寺尾町別所台	東寺尾別所	なし	なし	◎東寺尾別所	
105	光ヶ丘	酒詰仲男		酒詰1938		光ヶ丘		光ヶ丘	なし	なし	◎光ヶ丘	
106	子安農場南方	酒詰仲男		酒詰1938		久保下	久保下	子安農場南方	なし	神47隣接	◎久保下	
107	大口仲町	酒詰仲男		酒詰1938		大口		大口仲町	なし	なし	◎白幡向根	
108	中ノ窪	酒詰仲男		酒詰1938		中ノ窪	中の窪	中ノ窪			中ノ窪	
109	獅子鼻	酒詰仲男		酒詰1938		獅子鼻	宮の原、獅子が原	獅子鼻			○宮ノ原	
110	六萬台			酒詰1938		六萬台■		六万ノ原				
111	茅ヶ崎	大里雄吉		大里		茅ヶ崎	茅ヶ崎	茅ヶ崎			◎茅ヶ崎	
112	南堀	酒詰仲男		酒詰1938		南堀	南堀	南堀			南堀	
113	境田	酒詰仲男		酒詰1938		境田	境田	境田			◎境田	
114	北川	酒詰仲男		酒詰1938		北川	北川	北川			北川	
115	大棚	酒詰仲男		酒詰1938		大棚	大棚境	大棚				
116	神隠	酒詰仲男		酒詰1938		神隠	神隠	吉田平台			神隠	
117	下田(西)	酒詰仲男		酒詰1938		下田(西)	下田西	下田(西)		港北23	◎下田西	
118	下田(東)	酒詰仲男		酒詰1938		下田(東)	下田東	下田(東)		港北25	◎下田東	
119	下組	酒詰仲男		酒詰1938		下組	下組	下組		港北26	◎下組	
120	上菅田	酒詰仲男		酒詰1938		上菅田	上菅田	上菅田		保2	笹山	
121	中道	酒詰仲男		酒詰1959				中道	なし	なし	中道	
122	鳥越	酒詰仲男	1937	酒詰1959				鳥越町	なし	なし	■鳥越	
123	浅間町	酒詰仲男	1937	酒詰1959				浅間町	なし	なし	浅間町	
124	大口坂	山内清男	1939	奈文研1992			大口坂、大口	大口坂	なし	神55	大口坂	
125	矢増	江坂輝弥？	1940	酒詰1959				矢増	なし	なし	◎矢増	
126	史ヶ丘	尾形順一郎	1940	酒詰和島1940			善竜寺付近	史ヶ丘	神1	神58	◎齋藤分町	
127	梶山台	桑山龍進		桑山1941			梶山	梶山台	鶴6	鶴17	◎梶山	
128	北台	金子量重	1941	高橋中田1948				なし	鶴10	鶴83	◎北台(蔵畑か)	前出
129	神大寺	江坂輝弥	1942	酒詰1959			神大寺	神大寺町	神6	神44	◎神大寺	
130	大口台	池谷健治	1947	酒詰1959				面瀧四中農場内	なし	神49	◎大口台	
131	蕃神台西	池谷健治	1948	酒詰1959				蕃神台(西)	神5？	神52	蕃神台西	
132	入江町	池谷健治	1948	酒詰1959				入江町	神8	神63	入江町	

	名　称	発見者	年	初出文献	東大地名表	酒詰1938	石野瑛1953	酒詰1959	県71	横浜市04	貝塚の会	
133	東寺尾興国中学付近	池谷健治	1949	酒詰1959				東寺尾興国中学付近	神27	鶴107	東寺尾興国中学付近	シメンドウハラ
	錦ヶ丘		1949				錦ヶ丘					
134	白幡西	神奈川工業	1950	石野1953			白幡	なし	神40	神59	◎白幡西	前出
135	神大寺長山	神奈川工業	1950	石野1953			長山	なし	神15	神34移動	神大寺長山	
136	平尾台	武相学園	1950	石野1953			平尾台	なし	なし	神32	平尾台	
139	榎本	石野瑛	1950	石野1955			榎本	榎本	なし	港北237	榎本	
137	馬場(南)	池谷健治	1952	酒詰1959				馬場(南)	なし	なし	馬場	
	獅子ヶ谷町	石野		石野1953			鶴見区獅子ヶ谷町					
138	会ヶ谷	鵜木晶	1954	酒詰1959			篠原西部	会ヶ谷	150	港北231	会ヶ谷	篠原大原
140	東方町源東院	坂詰秀一		坂詰1956				源東院		都築287	源東院	
141	駒岡八千代田	石野瑛	1957	石野1961					なし	なし	○駒岡北	
142	岩井	丸山次雄	1959	秋田宮原1998					なし	なし	清水ヶ丘	前出
143	泉谷戸	丸山次雄		秋田宮原1998					なし	なし	◎泉谷戸	菅田利倉と同じ
144	平台			神奈川県1969					神30	神33	◎平台	
145	片倉大丸			神奈川県1969					神31	神34内	◎片倉大丸	
146	羽沢供養塔			神奈川県1971					神43	神4	供養塔	
147	日吉中駒	今村・松村	1971	今村松村1971						港北12	日吉中駒	
148	蜂ヶ台			港南区1979						磯36	◎蜂ヶ台	
149	日野詰	大津・馬場		港南区1979						なし	日野詰	
150	笹下2丁目	馬場久雄		港南区1979						なし	◎笹下2丁目	
151	菅田利倉		1979	調査団1990						神8	菅田利倉	
152	帷子峰		1981	調査団1984						保31	帷子峰	
153	平台北	戸田哲也	1983	戸田1984						神33	平台	
154	高島台裏手	高橋武		高橋1996						なし	◎高島台裏手	
155	上台北		2000	横浜市						鶴23	上台北	
156	松美町八幡神社		2006						神11	神48内	◎西寺尾八幡神社	
157	岸谷杉山神社		2007								◎岸谷杉山神社	
	市場熊野神社											

平成20年度考古学講座

貝塚とは何か

—縄文から近代まで　神奈川の貝塚にみる貝塚感の変移—

編集・発行　神奈川県考古学会

印　刷　株式会社アルファ

平成21(2009)年3月8日